

島根県教育庁

埋蔵文化財調査センター一年報 26

平成 29 年度

2018 年 3 月

島根県教育委員会



1. 御堂谷遺跡（大田市）の弥生時代の焼失住居



2. 史跡出雲国府跡（松江市）の正殿（もしくは後殿）建物跡（SB20）

目 次

埋蔵文化財調査センターの概要	1
Ⅰ 平成 29 年度の体制	2
1. 組 織	2
2. 職員一覧	2
Ⅱ 埋蔵文化財活用事業	3
1. 埋蔵文化財調査センター講演会	3
2. 現地説明会	3
3. 文化財講座『いにしえ倶楽部』	4
(1) いにしえ倶楽部	
(2) いにしえ倶楽部連続講座	
4. 心に残る文化財子ども塾	4
5. 職場体験等の受け入れ	5
6. 「ふるさと島根の遺物」貸出事業	5
7. 教員のための文化財活用講座	6
8. 見学等の案内	6
9. 職員の講師派遣	7
10. その他	7
11. 資料の貸出・調査等	8
(1) 資料調査	8
(2) 写真資料等	10
(3) 資料貸出	12
(4) その他	12
(5) 埋蔵文化財調査センターホームページ閲覧数	12
Ⅲ 研究事業	13
Ⅳ 研修事業	13
1. 埋蔵文化財基礎研修	13
2. 埋蔵文化財専門研修	14
Ⅴ 会議・講習会参加	15
Ⅵ 発掘調査事業	16
1. 一般国道 9 号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う発掘調査	17
2. 一般国道 9 号（大田静間道路）改築工事に伴う発掘調査	18
3. 一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う発掘調査	21
4. 一般国道 9 号（三隅益田道路）改築工事に伴う発掘調査	22
5. 国道 432 号（大庭バイパス）建設に伴う発掘調査	24
6. 県道矢尾今市線建設に伴う発掘調査	25

目 次

7. 一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う発掘調査	26
VII 学術調査等	28
1. 史跡出雲国府跡	28
2. 考古資料基礎調査研究（墓制調査）	29
3. 考古資料基礎調査研究（出土品再整理事業）	29
4. 保存処理	29
5. 試掘確認調査・分布調査	31
VIII 県内発掘調査一覧	32
IX 刊行物等	35
1. ドキ土器まいぶん	35
2. 発掘調査報告書	35
3. パンフレット	36
4. 発掘調査だより	36

埋蔵文化財調査センターの概要

埋蔵文化財調査センターの設置目的

島根県には、多数の青銅器が発見され全国的に注目された荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡をはじめ、全国で唯一ほぼ完本で伝わる『出雲国風土記』、国宝の出雲大社本殿、神魂神社本殿、松江城天守、世界文化遺産として登録された石見銀山遺跡など貴重な文化遺産が数多く存在しています。

その一方で、県内では1980年代から道路建設やダム建設などの各種開発事業が急増し、開発事業と埋蔵文化財保護との調整が課題となってきました。そこで、これらの課題に対処するとともに、県内の埋蔵文化財を調査・研究・保護し、調査成果の普及啓発を進めていくことを目的として、1992（平成4）年に埋蔵文化財調査センターが設置されました。

埋蔵文化財調査センターの業務

- 埋蔵文化財の調査及び研究
- 出土遺物の分析（軟X線検査装置・赤外線映像撮影装置・実体顕微鏡など）
- 出土遺物の保存処理（木製品・金属製品）
- 考古資料の保存・収蔵・管理・活用
- 埋蔵文化財に関する研修（専門研修・埋蔵文化財基礎研修）
- 調査成果の普及活用（心に残る文化財子ども塾・文化財講座・講演会など）

設立年月日 平成4(1992)年4月1日

所在地 〒690-0131 島根県松江市打出町33番地

TEL0852-36-8608 FAX0852-36-8025

Eメールアドレス maibun@pref.shimane.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

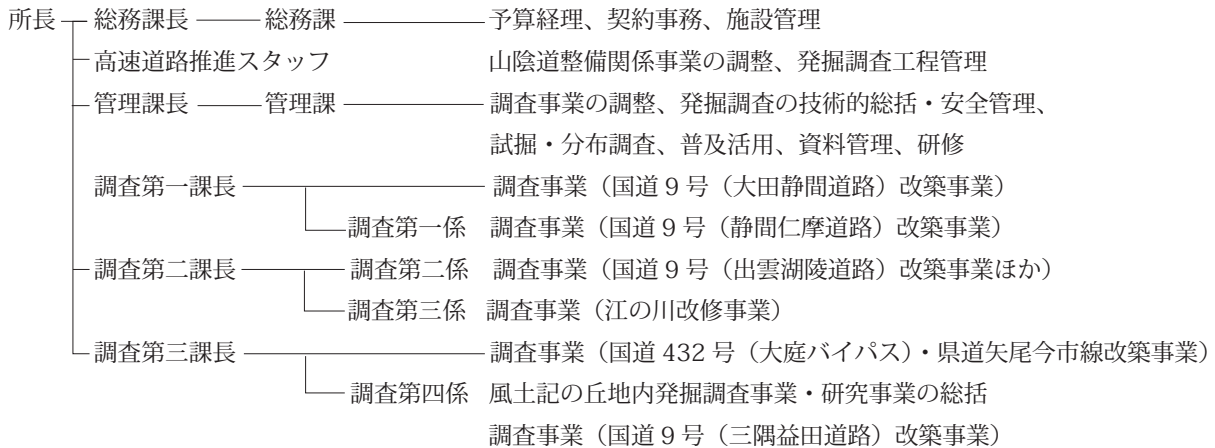
施設と規模

本館棟	展示室	175㎡	収蔵庫棟	収蔵庫	1,448㎡
	研修室	155㎡		機材庫・車庫	172㎡
	所長室	25㎡		小計	1,620㎡
	事務室・調査研究室	315㎡	いにしえ 学習館棟	体験学習室	95㎡
	図書室	73㎡		整理復元室	576㎡
	資料保管室	75㎡		木器保管展示室	197㎡
	特別収蔵室	122㎡		仮収蔵室（兼務写場）	86㎡
	写場	33㎡		収蔵庫	2,463㎡
	整理復元室	429㎡		その他	279㎡
	理化学分析室	35㎡			
	鉄器処理室	35㎡			
	木器処理室	35㎡			
	水洗室	70㎡			
	その他	942㎡	小計	3,696㎡	
	小計	2,519㎡	合計	7,835㎡	

I 平成 29 年度の調査体制

1. 組織

島根県埋蔵文化財調査センター



2. 職員一覧

職名	氏名
所長	萩 雅 人
総務課	
課長	石 橋 聡
企画員	椋 木 範 子
嘱託	岩 成 真 代
	三 島 美 葉 子
事務補助員	中 田 優 子
高速道路推進スタッフ	
企画幹	今 岡 一 三
調査補助員	角 森 玲 子
管理課	
課長	池 淵 俊 一
企画員	神 柱 靖 彦
(兼) 企画員	澤 田 正 明
調査補助員	上 山 晶 子
調査第一課	
課長	大 庭 俊 次
調査第一係長	中 川 寧
企画員	仁 木 聡
主事	吉 松 優 希
嘱託	園 山 薫
	柳 浦 俊 一
調査補助員	米 田 美 江 子
	内 田 律 雄
	糸 賀 伸 文
	伊 東 豊
	飯 塚 由 起
	坂 根 健 悦
	小 川 一 樹

職名	氏名
調査第二課	
課長	守 岡 正 司
調査第二係長	宮 本 正 保
企画員	伊 藤 智
主幹 (調査第三係長)	深 田 浩
企画員	増 田 浩 太
嘱託	阿 部 賢 治
調査補助員	阿 部 智 子
	片 寄 雪 美
	岩 橋 康 子
	福 田 市 子
	無 川 美 和 子
	幸 村 康 子
	岩 田 剛
	佐 伯 幸 俊
調査第三課	
課長	間 野 大 丞
調査第四係長	是 田 敦
企画員	久 保 田 一 郎
企画員	伊 藤 徳 広
嘱託	松 山 智 弘
調査補助員	佐 野 木 信 義
	高 木 優 子
	樋 野 千 晴
	川 崎 英 司
	世 良 啓
	大 田 晴 美
	柿 田 愛 子

II 埋蔵文化財活用事業

島根県埋蔵文化財調査センターでは、埋蔵文化財の保護を円滑に行うために調査成果の公開、県民や学校教育現場などへの普及活用事業を行っている。

1. 埋蔵文化財調査センター講演会

島根県埋蔵文化財調査センターが実施している発掘調査の成果等を県民に分かりやすく情報発信する講演会で、年に一度島根県内において開催している。

平成 29 年度は、島根地域の弥生文化の源流を朝鮮半島との交流から考える講演会を、以下のとおり開催した。

平成 29 年度島根県埋蔵文化財調査センター講演会

「しまねの弥生文化の源流を探る - 朝鮮半島と出雲・石見・隠岐 -」

日 時 : 平成 29 年 11 月 12 日 (日) 13:00 ~ 16:15 (12:30 開場)

会 場 : 島根県民会館 多目的ホール (松江市殿町)

参加者数: 109 名

主 催 : 島根県埋蔵文化財調査センター・松江市教育委員会

内 容 :

- ・講演「考古学から見た青銅器時代における朝鮮半島と出雲」
平郡達哉 (島根大学法文学部准教授)
- ・報告「渡来人と出雲の弥生時代遺跡－堀部第 1 遺跡・古浦遺跡を中心に－」
赤澤秀則 (松江市まちづくり文化財課主幹)
- ・報告「朝鮮半島と出雲の青銅器文化」
増田浩太 (島根県埋蔵文化財調査センター企画員)
- ・報告「出雲・石見・隠岐の弥生時代墓制と朝鮮半島」
今福拓哉 (江津市教育委員会主任主事)
- ・パネルディスカッション「しまねの弥生文化の源流を探る」
司会 松本岩雄 (島根県立八雲立つ風土記の丘所長)
パネラー 平郡達哉・赤澤秀則・増田浩太・今福拓哉

2. 現地説明会

調査中の遺跡の一般公開、調査地近隣自治会への調査成果報告会を行った。

遺跡名	開催日	場 所	参加者	備 考
角落し遺跡	平成 29 年 8 月 5 日 (土)	浜田市三隅町	15 名	地元自治会向け
常楽寺柿木田古墳群	平成 29 年 9 月 2 日 (土)	出雲市湖陵町	30 名	地元自治会向け
森原神田川遺跡	平成 29 年 9 月 9 日 (土)	江津市松川町	80 名	
田淵遺跡	平成 29 年 10 月 1 日 (土)	江津市川平町	20 名	地元自治会向け
尾ノ上遺跡・御堂谷遺跡	平成 29 年 10 月 28 日 (土)	大田市町烏井町他	30 名	
史跡出雲国府跡	平成 29 年 11 月 11 日 (土)	松江市大草町	60 名	
蔵廻り遺跡	平成 29 年 12 月 2 日 (土)	益田市西平原町	30 名	地元自治会向け
川原宮Ⅲ遺跡	平成 29 年 12 月 16 日 (土)	松江市大庭町	40 名	
合 計			約 305 名	

3. 文化財講座『いにしえ倶楽部』

埋蔵文化財をより身近に感じてもらうことを目的とし、調査の成果や当センターで保管している出土品などを活用して開催する講座。今年度は、親子等を対象とし体験的な活動を中心とした催しとして「いにしえ倶楽部」を1回実施した。また歴史や文化財に興味関心のある一般の方を対象とした講義形式での講座「いにしえ倶楽部連続講座」を3回行った。

【いにしえ倶楽部】

内 容	会 場	内 容	参加者数	実施日
第68回いにしえ倶楽部『きみも卑弥呼の鏡をつくろう!』	埋蔵文化財調査センター研修室	遺跡出土の青銅鏡解説・展示・ミニ金属鏡の铸造研磨体験	47名	8月18日(金)
合 計			47名	

【いにしえ倶楽部連続講座】

実施日	演 題	講 師	参加数
平成29年5月21日(日)	「しまねの発掘 最新情報」	今岡一三・伊藤智・仁木聡	83名
平成29年9月23日(土)	「世界を魅了した布志名焼」	阿部賢治	75名
平成30年2月24日(土)	「史跡出雲国府跡 国庁域の実態を探る!」	是田 敦	83名
合 計			241名

4. 心に残る文化財こども塾

県内の小・中学校及び特別支援学校の児童生徒を対象に、埋蔵文化財を教材とし、古代体験活動や遺跡見学を盛り込んだ出前授業を行った。

	学校名	実施日	対象学年	人数	テーマ・主題等	体験活動等
1	松江市立生馬小学校	5月11日(水)	6	18	聖武天皇と奈良の大仏	大仏パネル
2	奥出雲町立亀嵩小学校	5月18日(木)	5・6	13	奈良の大仏と奈良時代の奥出雲	大仏パネル
3	松江市立八束学園	5月22日(月)	6	26	古代の松江と埴輪づくり	埴輪づくり
4	松江市持田小学校	5月22日(月)	6	42	持田の遺跡と埴輪づくり	埴輪づくり
5	津和野町立青原小学校	5月23日(火)	5・6	8	ふるさとの歴史を学ぼう!	金属鏡作り
6	松江市立鹿島東小学校	5月25日(木)	6	12	古代の遺跡について	大仏パネル
7	出雲立湖陵小学校	5月25日(木)	6	55	勾玉づくりに挑戦しよう	勾玉づくり
8	出雲市立今市小学校	5月29日(月)	6	86	「奈良の大仏」の巨大さと込められた思い	大仏パネル
9	雲南市立三刀屋小学校	5月30日(火)	6	45	「奈良の大仏」の巨大さと込められた思い	大仏パネル
10	浜田市立旭小学校	6月1日(木)	6	12	古代の旭の歴史を学ぼう!	金属鏡づくり
11	飯南町立赤名小学校	6月5日(月)	6	4	地域の遺跡・古代の鏡	金属鏡づくり
12	雲南市立斐伊小学校	6月6日(火)	6	18	奈良時代の木次と奈良の大仏	和同開珎作り・大仏パネル
13	大田市立長久小学校	6月7日(水)	5・6	40	古代の大田について学びはにわ作りに挑戦しよう	和同開珎作り・大仏パネル・埴輪づくり

	学校名	実施日	対象学年	人数	テーマ・主題等	体験活動等
14	大田市立池田小学校	6月8日(木)	5・6	10	先人の生活を学ぼう、大仏の大きさをみてみよう	大仏パネル
15	松江市立城北小学校	6月9日(金)	6	96	「奈良の大仏」の巨大さと込められた思い	大仏パネル
16	松江立本庄小学校	6月12日(火)	6	14	奈良時代のお金と奈良の大仏	和同開珎作り・大仏パネル
17	松江市立宍道小学校	6月16日(金)	6	62	歴史を学ぼう！和同開珎づくりに挑戦！	和同開珎作り
18	松江市立意東小学校	6月22日(木)	6	33	奈良時代の東出雲町と古代遺跡	大仏パネル
19	浜田市立第四中学校	6月23日(金)	1	15	浜田の歴史を知り、古代の生活に触れよう	勾玉作り
20	飯南町立志々小学校	6月29日(水)	5・6	8	地域の遺跡巡り	遺跡見学
21	安来市立安田小学校	6月30日(金)	6	22	大仏パネルを完成させよう	火起こし
22	出雲養護学校みらい分教室	7月7日(金)	小・中	17	郷土の歴史・勾玉づくり	大仏パネル
23	雲南市立鍋山小学校	7月7日(金)	5・6	13	ふるさと三刀屋の歴史を学ぼう	遺跡見学
24	出雲市立国富小学校	10月6日(金)	5	30	地域の古墳	遺跡めぐり
25	島根県立松江ろう学校	11月23日(木)	4・5・6	7	古代人の生活を知ろう	古代食作り
26	島根県立石見養護学校	11月27日(月)	中3	18	学校周辺の遺跡と火起こし体験	古代食作り

合計 26 校 のべ参加児童生徒 7 2 4 人

5. 職場体験学習等の受け入れ

学校および希望者からの依頼を受け、職場体験の生徒、インターンシップの学生を受け入れた。

実施日	学校等	実施内容
6月12日(月)～13日(火)	島根県立緑が丘養護学校高等部	整理作業
9月11日(月)～14日(木)	しまね学生インターンシップ体験者2名	発掘調査・整理作業
9月19日(火)～22日(金)	松江市立湖北中学校3年生1名	発掘調査・整理作業

6. 「ふるさと島根の遺物」貸出事業

島根県埋蔵文化財調査センターが保管している土器や石器を学校等へ貸し出し、地域の歴史や文化財を学ぶための教材として活用している。

番号	貸出しセット名	申請者	使用目的	貸出期間
1	縄文狩猟セットA・弥生食卓セットほか	松江市立意東小学校校長	社会科学習で使用	5月10日～5月12日
2	弥生食卓セットB・弥生稲作セットA	八雲立つ風土記の丘所長	大庭小学校での授業に利用	5月23日～5月24日
3	縄文狩猟セットA・縄文採集セットB・縄文土器セットA	島根大学付属中学校校長	オープンスクール社会科学習教材として利用	8月22日～9月24日

7. 教員のための文化財活用講座

当センターでは県内小中学校教員等を対象とし、身近な地域に根ざした学習の創造に資するため地域の文化財や郷土の歴史資料等を活用した学習活動についての研修を年1回開催している。

今年度は、島根県立古代出雲歴史博物館と共催で実施した。

開催日：平成29年8月9日（水）13：00～16：00

主催：島根県埋蔵文化財調査センター・島根県立古代出雲歴史博物館

会場：古代出雲歴史博物館

参加者：16名

内容：

13:00～13:45 埋蔵文化財調査センター、古代出雲歴史博物館学校連携事業の概要説明

13:45～14:30 展示見学

14:30～16:00 ワークショップ（石膏銅鑠、低融点金属鏡作り）

8. 見学等の案内

埋蔵文化財調査センターでは展示室は開庁時開放し見学受け入れを行っているほか、学校や各種団体等より事前申し込みがあった際は整理作業や収蔵状況等の見学案内、古代体験活動、隣接する古墳の丘古曾志公園の案内を行っている。

発掘調査現場では、受け入れ対応が可能な場合は見学案内を行っており、今年度は以下の発掘調査現場において見学案内等を行った。

(1) 埋文センター見学案内

月日	見学者（団体）	時間	人数	見学案内	体験活動
5月22日	古江小学校	90分	30名	所内・公園	勾玉づくり
7月13日	益田高等学校（スーパーサイエンススクール）	140分	15名	所内	
7月19日	島根大学考古学研究室	60分	15名	所内・公園	
7月27日	湖北白鳥学園教職員	80分	30名	所内・公園	
11月17日	くにびき学園	90分	20名	所内	
2月13日	本庄小学校	120分	16名	所内	勾玉づくり
合計				126名	

(2) 発掘調査現場見学案内

月日	見学者（団体）	時間	人数	場所
10月27日	高角小学校6年生	90分	50名	森原神田川遺跡
11月8日	讚岐国府跡探索事業ボランティアグループ	30分	20名	史跡出雲国府跡
12月22日	地元住民	20分	2名	平ノ前遺跡
合計				72名

9. 職員の講師派遣

(平成 29 年 2 月 27 日以降に申請があったもの)

各種団体等からの依頼を受け講演会や古代体験学習等への職員派遣を行った。

月日	内容	場 所	派遣依頼者	講 師
4 月 15 日	石見銀山研究会での報告	男女共同参画センターあす てらす (大田市)	石見銀山研究会会長	今岡一三
6 月 24 日	勾玉づくり指導	木次小学校 (雲南市)	木次小学校 P T A	池淵俊一、神柱靖彦
7 月 23 日	西川津遺跡に関する講演会	川津公民館 (松江市)	川津公民館運営協議会長、 川津公民館長	内田律雄
8 月 19 日	風土記の丘教室での講演	八雲立つ風土記の丘	八雲立つ風土記の丘所長	柳浦俊一
8 月 23 日	古代史サマーセミナーでの研究 報告	ニューウェルシティ出雲(出 雲市)	古代史サマーセミナー実行 委員会実行委員長	守岡正司
9 月 2 日	山陰考古学研究会での報告	倉吉博物館 (鳥取県倉吉市)	倉吉市立倉吉博物館長	今岡一三、中川 寧
9 月 14 日	まつえ市民大学での講義	松江市市民活動センター(松 江市)	まつえ市民大学学長	内田律雄
9 月 29 日	神門ヒスタム研修会での講話	神門コミュニティセンター (出雲市)	神門ヒスタム代表	今岡一三
10 月 14 日	特別展にかかる講演会	兵庫県立考古博物館 (兵庫 県加古郡播磨町)	兵庫県立博物館長	増田浩太
11 月 8 日	校外学習の講師	魚見塚古墳 (松江市)	松江市立女子高等学校長	池淵俊一
11 月 25 日	勾玉づくり指導	古志原小学校 (松江市)	古志原小学校 P T A	池淵俊一、神柱靖彦
12 月 16 日	荒神谷博物館講演会	荒神谷博物館 (出雲市)	荒神谷博物館館長	上山晶子
1 月 27 日	島根考古学会例会での講演	出雲弥生の森博物館 (出雲 市)	島根考古学会会長	伊藤智、仁木聡
2 月 10 日	風土記の丘教室での講演	八雲立つ風土記の丘	八雲立つ風土記の丘所長	池淵俊一
2 月 17 日	荒神谷博物館講演会	荒神谷博物館 (出雲市)	荒神谷博物館館長	松山智弘

10. その他

①サンレイクフェスティバル 2017 への参加 (主催：島根県立青少年の家ほか)

期日：平成 29 年 10 月 15 日 (日) 8 : 30 ~ 17 : 00

会場：島根県立青少年の家「サン・レイク」

内容：勾玉作り体験ブース (200 個)

②島根県立古墳の丘古曾志公園「ウォーキング事業」への協力

主催：株式会社 M I しまね (公園指定管理者)

期日：平成 29 年 11 月 3 日 (金) 9:00 ~ 11:40

会場：古墳の丘古曾志公園、北小原横穴墓群ほか

内容：古墳・遺跡・旧跡の解説

③島根県立古墳の丘古曾志公園「古曾志公園春まつり」への協力

主催：株式会社 M I しまね (公園指定管理者)

期日：平成 29 年 3 月 24 日

会場：古墳の丘古曾志公園

内容：勾玉づくり指導

④第 11 回国府まつりへの協力

主催：島根県立八雲立つ風土記の丘

II 埋蔵文化財活用事業

期日：平成 28 年 10 月 22 日（日）10:00～14:00

会場：史跡公園 出雲国府跡

内容：発掘調査現場の見学会

11. 資料の貸出・調査等

(1) 資料調査（平成 29 年 1 月 4 日～12 月 28 日まで申請があったもの）

研究や展示借用の事前調査など、資料の詳細観察に関して応じている。

【展示・研究に要したものの】

【平成 28 年度 1～3 月】

番号	資料名	点数	申請者	月 日
1	サルガ鼻遺跡出土骨角器ほか	5	埋蔵文化財調査センター職員	1 月 10 日～1 月 31 日
2	鉄穴内遺跡出土鉄器	2	古代出雲歴史博物館職員	1 月 12 日
3	西川津遺跡出土弥生土器ほか	12	古代出雲歴史博物館職員	1 月 13 日
4	道休畑遺跡出土鉄器	2	埋蔵文化財調査センター職員	1 月 17 日
5	青木遺跡出土墨書土器ほか	93	古代出雲歴史博物館職員	1 月 24 日
6	陽徳寺遺跡出土陶磁器ほか	36	埋蔵文化財調査センター職員	2 月 4 日～2 月 19 日
7	東淵寺古墳出土土円筒埴輪ほか	32	八雲立つ風土記の丘学芸員	2 月 6 日
8	出雲国府跡出土須恵器ほか	49	大阪府教育庁文化財保護課職員	2 月 7 日
9	石台遺跡出土土器	1	古代文化センター職員	2 月 11 日～2 月 12 日
10	古志本郷遺跡出土土器ほか	49	埋蔵文化財調査センター職員	2 月 13 日～2 月 14 日
11	古志本郷遺跡出土土器	1	埋蔵文化財調査センター職員	2 月 13 日～2 月 14 日
12	沖手遺跡出土陶磁器	6	古代文化センター職員	2 月 13 日
13	西川津遺跡出土稲束ほか	3	弘前大学人文学部准教授	2 月 14 日
14	板屋Ⅲ遺跡出土縄文土器ほか	14	出雲市文化財課職員	2 月 15 日
15	原田遺跡出土土器ほか	123	埋蔵文化財調査センター職員	3 月 1 日～3 月 4 日
16	熊谷遺跡出土勾玉ほか	48	古代文化センター職員	3 月 2 日～3 月 3 日
17	米坂古墓群出土石塔ほか	29	古代文化センター職員	3 月 9 日～3 月 10 日
18	西川津遺跡出土稲束ほか	3	弘前大学人文学部准教授	2 月 14 日
19	松江市魚瀬出土土器ほか	7	個人	3 月 6 日

【平成 29 年度】

1	山代二子塚古墳出土埴輪	18	埋蔵文化財調査センター職員	4 月 13 日～5 月 12 日
2	伊甘神社脇遺跡出土土器ほか	2 箱	古代出雲歴史博物館職員	4 月 18 日～12 月 22 日
3	原田遺跡出土土器	545	広島大学総合博物館教授	4 月 21 日
4	山持遺跡出土木製品ほか	6	埋蔵文化財調査センター職員	4 月 25 日～5 月 12 日
5	小才古墳群出土土器ほか	39	埋蔵文化財調査センター職員	4 月 28 日
6	タテチヨウ遺跡出土櫛	2	埋蔵文化財調査センター職員	5 月 1 日～5 月 28 日
7	古屋敷遺跡出土土器ほか	42	埋蔵文化財調査センター職員	6 月 7 日～6 月 21 日
8	富田川河床遺跡出土陶磁器ほか	79	埋蔵文化財調査センター職員	6 月 9 日
9	原田遺跡出土土器	99	埋蔵文化財調査センター職員	6 月 12 日～9 月 29 日
10	青木遺跡出土墨書土器ほか	18	出雲市文化財課職員	6 月 22 日
11	西川津遺跡出土櫛ほか	28	八雲立つ風土記の丘学芸員	6 月 23 日
12	原田遺跡出土羽口	20	古代出雲歴史博物館職員	6 月 23 日～6 月 24 日
13	板屋Ⅲ遺跡出土縄文土器ほか	243	岡山理科大学教授	6 月 26 日～6 月 27 日
14	西川津遺跡出土土器ほか	169	埋蔵文化財調査センター職員	6 月 26 日～8 月 31 日
15	大原遺跡出土須恵器ほか	53	古代文化センター職員	6 月 26 日～6 月 30 日
16	堂床遺跡出土玉未成品ほか	35	古代文化センター職員	6 月 26 日～6 月 30 日
17	堂床遺跡出土玉未成品ほか	4	古代文化センター職員	6 月 26 日～6 月 30 日
18	沖手遺跡出土漆器	1	古代文化センター職員	6 月 28 日

番号	資料名	点数	申請者	月 日
19	白コクリ遺跡出土耳環ほか	20	埋蔵文化財調査センター職員	7月10日～7月14日
20	山持遺跡出土弥生土器ほか	32	埋蔵文化財調査センター職員	7月12日～7月14日
21	庵寺古墳群出土耳環ほか	2	埋蔵文化財調査センター職員	7月13日
22	沖手遺跡出土漆器	1	埋蔵文化財調査センター職員	7月18日
23	出雲国府跡出土須恵器ほか	36	山口県埋蔵文化財センター職員	7月18日
24	石台遺跡出土石器ほか	19	埋蔵文化財調査センター職員	7月18日～9月30日
25	西川津遺跡出土土器ほか	49	伊都国歴史博物館学芸員	7月20日～7月21日
26	西川津遺跡出土縄文土器ほか	261	古代文化センター職員	7月20日～7月26日
27	北ヶ迫遺跡出土瓦	1	個人	7月21日
28	北原本郷遺跡出土耳飾りほか	10	八雲立つ風土記の丘学芸員	7月25日
29	青木遺跡出土木簡ほか	53	奈良文化財研究所職員	7月28日
30	板屋Ⅲ遺跡出土縄文土器ほか	173	埋蔵文化財調査センター職員	8月1日
31	タテチョウ遺跡出土土器ほか	101	埋蔵文化財調査センター職員	8月1日～10月20日
32	古屋敷遺跡出土縄文土器ほか	247	愛媛大学法文学部准教授	8月2日
33	山持遺跡出土縄文土器ほか	42	埋蔵文化財調査センター職員	8月7日～8月31日
34	板屋Ⅲ遺跡出土羽口ほか	24	古代出雲歴史博物館職員	8月7日
35	北ヶ迫遺跡出土陶磁器ほか	9	広島県立歴史民俗資料館学芸員	8月9日
36	山持遺跡出土三韓土器ほか	20	埋蔵文化財調査センター職員	8月10日～8月31日
37	庵寺古墳群出土鏡ほか	8	埋蔵文化財調査センター職員	8月17日～8月21日
38	古八幡付近遺跡出土石器ほか	9	古代出雲歴史博物館職員	8月17日～8月30日
39	山持遺跡出土玉類	72	埋蔵文化財調査センター職員	8月21日～8月31日
40	西川津遺跡出土土器ほか	27	広島大学大学院学生	8月21日～8月22日
41	タテチョウ遺跡出土土器ほか	40	広島大学大学院学生	8月23日～8月24日
42	荒楨遺跡出土土器ほか	2	古代出雲歴史博物館職員	8月25日
43	原田遺跡出土石器	244	広島大学総合博物館教授	8月25日
44	山持遺跡出土玉類ほか	61	埋蔵文化財調査センター職員	9月1日～9月5日
45	出雲国府跡出土土器ほか	18	古代出雲歴史博物館職員	9月6日
46	沖手遺跡出土瓦質土器	69	埋蔵文化財調査センター職員	9月9日
47	山持遺跡出土弥生土器ほか	32	埋蔵文化財調査センター職員	9月11日～9月29日
48	高広遺跡出土須恵器ほか	218	古代文化センター職員	9月11日～9月29日
49	布志名焼窯跡群出土陶磁器ほか	103	埋蔵文化財調査センター職員	9月23日
50	島田黒谷Ⅲ遺跡出土石器ほか	11	徳島県埋蔵文化財調査センター職員	10月10日
51	板屋Ⅲ遺跡出土羽口ほか	12	古代文化センター職員	10月14日～10月15日
52	山持遺跡出土土器ほか	115	荒神谷博物館学芸員	10月18日

II 埋蔵文化財活用事業

番号	資料名	点数	申請者	月 日
53	古八幡付近遺跡出土瓦器ほか	2 箱	古代出雲歴史博物館職員	10月23日
54	堂床遺跡出土玉未成品ほか	38	八戸市博物館学芸員	10月25日
55	遺物貸出セット（出雲 古代）	2 箱	古代出雲歴史博物館職員	10月27日～10月30日
56	西川津遺跡出土漆塗土器	172	安城市教育委員会職員	10月30日
57	塚山古墳出土埴輪ほか	3	大手前大学大学院学生	10月31日
58	姫原西遺跡出土木製品ほか	760	古代出雲歴史博物館職員	11月6日～11月30日
59	出雲国府跡出土土瓦	4	埋蔵文化財調査センター職員	11月13日～11月17日
60	古屋敷遺跡出土縄文土器	1	埋蔵文化財調査センター職員	11月13日～11月22日
61	山持遺跡出土土器ほか	9	埋蔵文化財調査センター職員	11月13日～11月24日
62	山持遺跡出土土器	4	埋蔵文化財調査センター職員	11月13日～11月24日
63	高浜Ⅰ遺跡出土木製品ほか	32	出雲市上平親和会会長	11月22日～11月24日
64	タテチョウ遺跡出土土笛ほか	35	島根大学学生	11月30日
65	中野清水遺跡出土土器ほか	52	埋蔵文化財調査センター職員	12月1日～1月31日
66	島田池遺跡出土大刀ほか	3	八雲立つ風土記の丘学芸員	12月6日
67	蔵小路西遺跡出土土器ほか	16	埋蔵文化財調査センター職員	12月8日～12月20日
68	半坂古墓群出土墨書土器ほか	3	出雲市文化財課職員	12月13日
69	西川津遺跡出土木製品ほか	54	京都大学大学院学生	1月15日～1月17日
合 計		1,148		

(2) 写真資料等（平成29年1月4日～平成29年12月28日までに申請があったもの）

単行本、雑誌、展示図録等の写真の掲載に応じている。

【平成28年度1月～3月】

番号	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出日
1	青木遺跡出土常滑焼	1	個人	新聞掲載	1月5日
2	荒神谷遺跡出土銅剣・銅鐸	2	株式会社はる制作室	書籍掲載	1月13日
3	青木遺跡出土鉄鎌ほか	10	美浜町教育委員会	書籍掲載	1月17日
4	上久々茂土居跡空中写真	1	泉光寺	書籍掲載	2月3日
5	出雲国府跡出土漆紙文書	2	古代出雲歴史博物館	展示図録掲載	2月9日
6	鉄穴内遺跡出土鍛冶関連遺物	1	古代出雲歴史博物館	展示図録掲載	2月9日
7	青木遺跡四隅突出型墳丘墓ほか	10	八雲立つ風土記の丘	パンフレット掲載	2月20日
8	古志本郷遺跡出土三韓土器	1	国引きジオパーク協議会	申請書添付資料	2月24日
9	古八幡付近遺跡出土石製品	1	個人	論文掲載	2月28日
10	古曾志大谷1号墳出土埴輪	3	個人	論文掲載	2月28日
11	西川津遺跡出土土笛	1	株式会社朝倉書店	書籍掲載	3月9日
12	山持遺跡出土楽浪土器	1	株式会社エブリプラン	パンフレット掲載	3月14日
13	古志本郷遺跡出土土器ほか	16	テレコムスタッフ株式会社	番組で使用	3月15日
14	松本遺跡Ⅰ区道路状遺構	1	出雲市	報告書に掲載	3月27日
15	西Ⅰ遺跡出土三輪玉ほか	2	古代文化センター職員	新聞掲載	3月30日

【平成 29 年度】

番号	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出日
1	荒神谷遺跡銅鐸・銅矛出土状況ほか	2	株式会社ゴッズインターナショナル	番組使用	4月18日
2	荒神谷遺跡銅鐸・銅矛出土状況	1	ワック株式会社	番組使用	4月20日
3	下山遺跡立石ほか	3	個人	書籍掲載	4月25日
4	五丁遺跡出土弥生土器	1	古代文化センター職員	パンフレット掲載	4月25日
5	荒神谷遺跡出土銅剣	1	個人	書籍掲載	4月26日
6	原田遺跡出土黒曜石	1	株式会社ファミリーマガジン	書籍掲載	5月17日
7	板屋Ⅲ遺跡出土羽口	1	新潟市文化財センター	企画展展示	6月7日
8	松林寺遺跡現地説明会資料	1	株式会社ジャパン通信情報センター	書籍掲載	6月19日
9	荒神谷遺跡銅鐸・銅矛出土状況	1	株式会社新潮社	書籍掲載	6月26日
10	荒神谷遺跡銅剣出土状況	1	東京書籍株式会社	書籍掲載	6月29日
11	荒神谷遺跡出土銅剣	1	明治図書出版株式会社	書籍掲載	6月29日
12	下山遺跡出土土偶ほか	16	八雲立つ風土記の丘	企画展展示	7月5日
13	原田遺跡出土石錘	1	埋蔵文化財調査センター職員	新聞掲載	7月26日
14	西川津遺跡出土土笛	1	個人	書籍掲載	7月31日
15	出雲国府跡出土渡来系土器ほか	1	文化財課長	シンポジウム資料掲載	8月6日
16	山持遺跡出土楽浪土器	1	文化財課長	チラシ掲載	8月6日
17	塩津山1号墳円筒土器	1	安来市教育委員会	看板掲載	8月9日
18	西川津遺跡出土漆材ほか	2	古代文化センター職員	新聞掲載	8月25日
19	値谷鉦跡調査区全景	1	江津市教育委員会	新聞掲載	8月21日
20	西川津遺跡出土炭化米ほか	4	ハーベスト出版	書籍掲載	8月28日
21	青木遺跡出土神像	6	株式会社国書刊行会	書籍掲載	9月19日
22	梨ノ木坂遺跡石畳	2	大田市教育委員会	会議資料	9月22日
23	荒神谷遺跡銅矛・銅鐸出土状況ほか	4	株式会社かみゆ	書籍掲載	9月22日
24	山持遺跡出土土器ほか	2	埋蔵文化財調査センター職員	講演会使用	10月4日
25	荒神谷遺跡銅剣出土状況ほか	11	個人	書籍掲載	10月4日
26	山持遺跡土器出土状況ほか	31	荒神谷博物館	企画展示	10月10日
27	荒神谷遺跡銅剣取り上げの様子ほか	2	荒神谷博物館	パンフレット掲載	10月10日
28	板屋Ⅲ遺跡粉痕土器	1	一般社団法人放送大学教育振興会	書籍掲載	10月20日
29	板屋Ⅲ遺跡土層	5	古代出雲歴史博物館職員	研究発表	10月22日
30	庵寺古墳群空中写真	1	J J A 石見銀山地区本部	カレンダー掲載	10月27日
31	古屋敷遺跡空中写真	2	個人	パネル展示	10月27日
32	滝ノ屋谷城跡遠景ほか	3	ハーベスト出版	書籍掲載	10月2日
33	青木遺跡9本柱建物	1	株式会社洋泉社	書籍掲載	10月30日
34	山持遺跡出土弥生土器ほか	3	埋蔵文化財調査センター職員	講演会使用	11月2日
35	山持遺跡出土楽浪土器ほか	5	株式会社新泉社	書籍掲載	11月27日
36	古屋敷遺跡出土土器ほか	24	埋蔵文化財調査センター職員	パンフレット掲載	12月1日
37	西川津遺跡出土漆塗土器	1	INAX ライブミュージアム	企画展展示	12月4日
38	加茂岩倉遺跡遠景	2	青春出版社	書籍掲載	12月18日
39	板屋Ⅲ遺跡土層ほか	3	国立歴史民俗博物館	常設展展示ほか	12月28日
40	原田遺跡環状ブロックほか	3	古代出雲歴史博物館	企画展展示	1月4日

II 埋蔵文化財活用事業

(3) 資料貸出（平成 29 年 1 月 4 日～ 12 月 28 日まで申請があったもの）

所蔵する資料を有効に活用するために、外部からの依頼に応じて貸出を行っている。

【平成 28 年度 1～3 月】

番号	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間
1	タテチョウ遺跡出土弥生土器ほか	11	古代出雲歴史博物館	常設展	2月14日～3月31日
2	東淵寺古墳出土円筒埴輪ほか	76	八雲立つ風土記の丘	速報展	2月24日～6月11日
3	青木遺跡出土墨書土器ほか	104	古代出雲歴史博物館	企画展	3月1日～5月31日
4	板屋Ⅲ遺跡出土縄文土器ほか	8	出雲弥生の森博物館	ギャラリー展	3月1日～6月30日

【平成 29 年度】

番号	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間
1	加茂岩倉遺跡出土銅鐸レプリカ	1	八雲立つ風土記の丘	ロビー展	5月16日～9月15日
2	青木遺跡出土墨書土器ほか	19	出雲弥生の森博物館	企画展	7月4日～9月25日
3	西川津遺跡出土ウルシ杭ほか	12	国立歴史民俗博物館	企画展	7月11日～9月3日
4	沖手遺跡出土磁器・漆器	6	石見美術館	企画展	8月20日～12月20日
5	タテチョウ遺跡出土土笛ほか	12	下関市立考古博物館	特別展	8月28日～12月1日
6	西川津遺跡出土瓢箪容器ほか	2	古代出雲歴史博物館	常設展	8月30日～11月30日
7	北原本郷遺跡出土土偶ほか	39	八雲立つ風土記の丘	企画展	8月31日～11月30日
8	前立山遺跡出土石包丁	1	古代出雲歴史博物館	常設展	9月12日～3月30日
9	北ヶ迫遺跡出土陶器ほか	9	広島県立歴史民俗資料館	特別企画展	9月22日～11月26日
10	カンボウ遺跡出土弥生土器ほか	46	伊都国歴史博物館	特別展	9月25日～12月8日
11	タテチョウ遺跡出土炭化稲糊塊ほか	3	榎原考古学研究所	非破壊分析	10月16日～1月
12	山持遺跡出土土器ほか	115	荒神谷博物館	企画展	11月7日～3月9日
13	島田池遺跡出土大刀ほか	3	八雲立つ風土記の丘	ミニ企画展	12月18日～3月9日
14	山持遺跡出土土ティサラ	1 連	荒神谷博物館	企画展	1月10日～3月9日
15	半坂古墳群出土墨書土器ほか	3	出雲弥生の森博物館	ギャラリー展	1月24日～5月28日
16	姫原西遺跡出土木製品ほか	694	古代出雲歴史博物館	企画展	3月23日～5月16日

(4) その他

所蔵する機材や物品の貸出に応じている。

物品名(点数)	貸出先	使用目的	貸出期間
火起こし道具(20)	吉賀町教育委員会	社会学習	12月18日～12月25日
刈払機ほか	古代文化センター職員	測量調査・写真撮影	12月18日～12月20日

(5) 埋蔵文化財調査センターホームページ閲覧数

当センターの事業内容や現地説明会、講演会などの情報を多くの人々に公開し、埋蔵文化財に対する興味と理解を高めることを目的にホームページを開設・運用している。

2017年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
アクセス数	1,380	1,241	1,148	1,987	1,443	1,246	1,161	1,172	1,091	1,584	1,257	1,059	15,769

Ⅲ 研究事業

島根県古代文化センターの研究事業のうち、基礎研究「考古資料基礎研究事業」、およびテーマ研究について、以下のとおり当センター職員も参画し、共同研究の一翼を担った。

調査事業名	細事業	当センターの担当者
考古基礎調査研究事業 青銅器調査	①三木資料整理・公開	柳浦俊一、増田浩太、中川 寧
	②荒神谷・加茂岩倉青銅器調査	
	③埋納地調査	
考古基礎調査研究事業 基礎資料収集調査	出土品再整理	是田 敦、池淵俊一
考古基礎調査研究事業 墓制調査	①報告書作成業務	神柱靖彦、池淵俊一、是田 敦、仁木 聡、吉松優希、大庭俊次
テーマ研究	隠岐産黒曜石の獲得と利用に関する研究	柳浦俊一、伊藤徳広、神柱靖彦
	石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界 - 御神本一族を軸に -	守岡正司
	国家形成期の首長権と地域社会構造に関する研究	池淵俊一、仁木 聡、吉松優希
	古墳時代の玉類の研究	深田 浩、柳浦俊一
	たたら製鉄の成立過程	宮本正保
	前近代島根県域における環境と人間	今岡一三、池淵俊一
	山陰弥生文化の形成過程	増田浩太、中川 寧
	「日本書紀」と出雲に関する研究	仁木 聡、久保田一郎

Ⅳ 研修事業

1. 埋蔵文化財基礎研修

島根県及び県内市町村教育委員会等の埋蔵文化財担当職員のうち、埋蔵文化財調査未経験者または初心者を対象とした基礎的な研修。今年度は募集に対し下記のとおり実施した。

【埋蔵文化財基礎講座】

日時：平成 29 年 4 月 14 日（金）～ 4 月 17 日（月）

場所：埋蔵文化財調査センター研修室ほか

参加：2 名

講師：島根県教育庁文化財課職員及び島根県埋蔵文化財調査センター職員

内容：(1) 講話 (2) 文化財保護行政の歩みと文化財行政の現状 (3) 埋蔵文化財保護行政の事務手続き (4) 発掘調査の計画と安全管理 (5) 報告書の作成と収蔵・活用 (6) 文化財写真概論・実習

【実技講座Ⅰ】

日時：平成 29 年 6 月 15 日（木）～ 6 月 16 日（金）

場所：埋蔵文化財調査センター研修室ほか

参加：1 名

内容：発掘調査で必要な測量の基礎的知識の習得及び実技

【実技講座Ⅲ】

IV 研修事業

日時：平成30年1月16日（火）～1月18日（木）

場所：埋蔵文化財調査センター研修室ほか

参加：1名

内容：報告書作成に関わる実技

2. 埋蔵文化財専門研修

島根県及び県内市町村埋蔵文化財担当者を対象とし、埋蔵文化財発掘調査に必要な専門的知識や技術の習得を目的とした研修を実施した。

【第1回】

日 時：平成29年6月9日（金）13:30～16:00

場 所：埋蔵文化財調査センター研修室

参加者：58名

テーマ：戦国時代の茶の湯

1. 講演「戦国時代の茶の湯」
2. 解説「発掘調査で出土した茶陶等の解説」

西田 宏子氏（公益財団法人 根津美術館顧問）

【第2回】

日 時：平成29年10月23日（月）

場 所：埋蔵文化財調査センター研修室

参加者：56名

テーマ：玉類からみた古墳時代の様相

1. 講演「日韓出土の金属製玉類」
井上 主税氏（関西大学文学部日本史・文化遺産専修 准教授）
2. 発表「古墳時代の玉類」

岩橋 孝典氏（島根県古代文化センター専門研究員）

【第3回】

日 時：平成30年1月19日（金）13:30～16:10

場 所：埋蔵文化財調査センター研修室

参加者：32名

テーマ：奈良文化財研究所文化財担当者専門研修等報告

1. 発表「出土品管理・活用課程」
伊藤 徳広（島根県埋蔵文化財調査センター企画員）
2. 発表「古代・中近世瓦調査課程」
是田 敦（島根県埋蔵文化財調査センター調査第四係長）
3. 発表「印刷費積算講習会」

神柱 靖彦（島根県埋蔵文化財調査センター企画員）

【第4回】

日 時：平成30年3月9日（金）10:30～15:10

場 所：埋蔵文化財調査センター研修室

参加者：34名

テーマ：平成29年度県内発掘調査速報会

1. 松江市 川原宮Ⅲ遺跡 県埋蔵文化財調査センター 調査第三課長 間野 大丞
2. 江津市 森原神田川遺跡 県埋蔵文化財調査センター 調査第三係長 深田 浩
3. 益田市 蔵廻り遺跡 県埋蔵文化財調査センター 企画員 久保田 一郎

4. 大田市 御堂谷遺跡 県埋蔵文化財調査センター 企画員 仁木 聡
5. 松江市 出雲国府跡 県埋蔵文化財調査センター 調査第四係長 是田 敦
6. 松江市 海崎古墳群 (財)松江市スポーツ振興財団 廣濱 貴子
7. 安来市 米垣横穴墓群 安来市教育委員会文化財課 大塚 充

V 会議・講習会等

当センターが加盟している全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会の総会、中国・四国・九州ブロック会議及び研修会に参加した。

- (1) 総会 平成 29 年 6 月 1 日 (木) ～ 2 日 (金) 静岡県静岡市ホテルセンチュリー静岡
- (2) ブロック会議 平成 29 年 11 月 24 日 (金) ～ 25 日 (土) 福岡県小郡市 小郡市埋蔵文化財調査センター研修室

文化庁が主催する埋蔵文化財担当職員等講習会に 1 名が参加した。

第 2 回講習会 平成 30 年 1 月 31 日 (水) ～ 2 月 2 日 (金) 福岡県福岡市福岡県吉塚同合同庁舎

VI 発掘調査事業

受託事業

平成29年度は7事業13遺跡の本発掘調査を行った。事業の内訳は国直轄事業は一般国道9号改築事業（出雲湖陵道路、大田静間道路、静間仁摩道路、三隅益田道路）及び江の川改修事業、県事業では矢尾今市線及び大庭バイパス建設に伴う発掘調査である。出雲湖陵道路予定地内では、柿の木田古墳の調査を実施したが、確認されたのは古墳ではなく弥生時代の竪穴住居跡2棟であった。

大田静間道路予定地内では御堂谷遺跡、尾ノ上遺跡、平ノ前遺跡、桜田遺跡の調査を行い、丘陵上に立地する御堂谷遺跡では弥生時代前期～古代にかけての集落跡が確認され、中には焼失住居も存在していた。静間仁摩道路予定地内では松林寺遺跡で丘陵斜面に立地する弥生時代の集落を調査した。三隅益田道路予定地内では角落し遺跡、嶮口古墓、蔵廻り遺跡の調査を行い、蔵廻り遺跡では幅10mを超える中世の大規模な水路跡を確認している。

江の川改修事業では田淵遺跡、森原神田川遺跡の調査を行い、森原神田川遺跡で近世の水田及び噴砂の痕跡が確認された。矢尾今市線建設予定地では中世の集落跡である高浜Ⅰ遺跡の調査を行い、大庭バイパス建設予定地では川原宮Ⅲ遺跡で中世の区画溝が確認されている。

学術調査

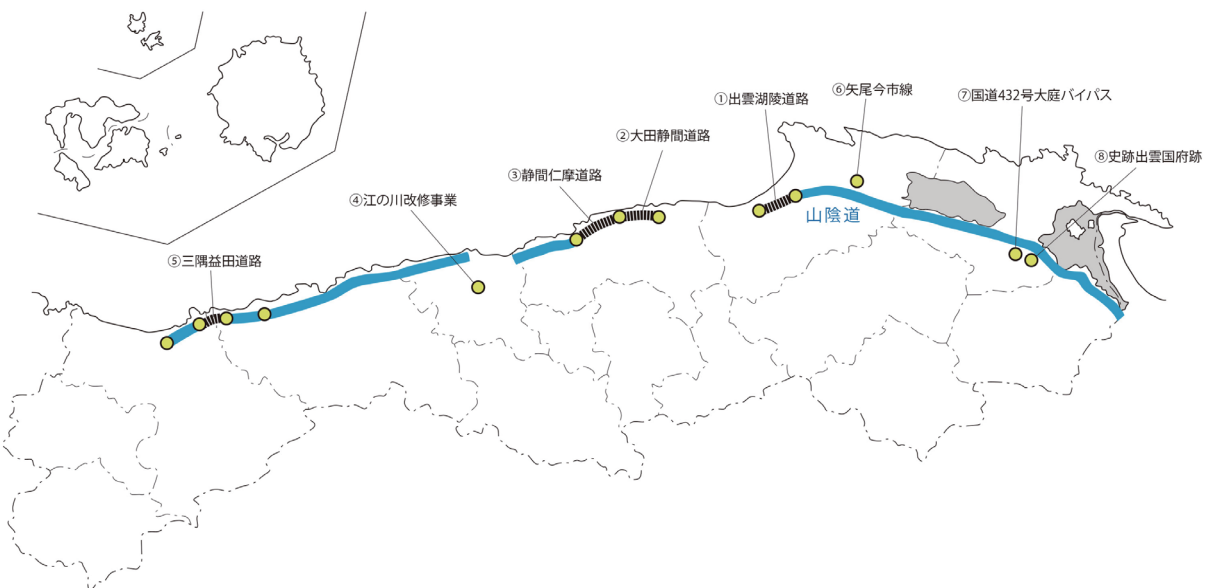
今年度の史跡出雲国府跡の調査は、国庁とその周辺の調査を行い、国庁の正殿もしくは後殿と考えられていた四面庇付建物跡が、礎石建物跡に建て替えられていたことが判明した。また、墓制調査では古天神古墳・上竹矢7号墳など風土記の丘地内周辺の古墳調査成果を収録した報告書を作成した。

分布調査

今年度は、松江北道路建設予定地内の丘陵部についての分布調査と、江の川改修事業及び矢原川ダム建設、中電鉄塔建て替えに伴う分布調査を実施した。

報告書作成

今年度は、出雲湖陵道路の京田遺跡3区・浅柄Ⅲ遺跡の調査報告書、三隅益田道路の角落し遺跡、神出西遺跡を含む5箇所の調査報告書を刊行した。



平成29年度 埋蔵文化財調査センター発掘調査箇所位置図

1. 一般国道 9 号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う発掘調査

事業概要 この調査は国土交通省松江国道事務所から委託を受けて、平成 26 年度より実施している。今年度は、出雲市湖陵町常楽寺に所在する常楽寺柿木田古墳群の調査を行った。



遺跡位置図（ 1:25,000）

常楽寺柿木田古墳群

調査概要 遺跡は、出雲平野南西部を北流する常楽寺川の東岸に位置し、標高 30～40 m の丘陵頂部に立地する。現地調査期間は平成 29 年 7 月 11 日～9 月 8 日、調査面積は 600㎡で、調査員 1 名と調査補助員 2 名の体制で実施した。

遺構の概要 基本的な層序は、表土の下に地山に似た茶色系の砂質土からなる遺物包含層が存在し、これを除去すると地山となる。尾根上は墓地や山道などで改変され遺物包含層がほとんど存在しないが、斜面では厚さが 1 m 近くになる箇所もあった。調査の結果、竪穴建物跡 2、溝状遺構 2 を検出した。

竪穴建物跡はいずれも尾根上で確認され、床面の標高は 32～33 m である。上方に位置する SI01 は、平面形が隅丸方形で一辺約 4 m である。主柱穴は 2 本で、当初は壁沿いに設けたものを後に内側に建て替えたと思われる。中央にあるピットの埋土からは粒状の木炭が検出され、西側に隣接して焼土が確認された。遺物は建物の埋土中から鼓形器台と石皿、玉髓製の剥片が、ピット（柱穴）から弥生土器と見られる土器片が出土した。器台の時期は弥生時代後期後半で、SI01 もこの時期のものと考えられる。SI02 は平面形が不整な円形で、径約 4 m である。主柱穴は 3 本と見られ、ほかに小規模なピットが 3 基確認された。ピット（柱穴）から鉄片 1 点が出土したのみで、時期を示す土器などは認められない。溝状遺構は尾根をわずかに西に下った位置で検出した。尾根筋の方向に南北に伸び、長さは約 4 m と約 6 m である。遺物は出土していない。このほか、遺構に伴わない遺物では、弥生土器、須恵器がある。

まとめ 今回の調査では弥生時代後期と見られる集落を確認した。旧湖陵町にあたる神西湖の南側地域においては遺構が確認された弥生時代の遺跡はわずかで、この地域の歴史を考える上で貴重な資料となった。

（宮本正保）



SI01



SI02

2. 一般国道9号（大田静間道路）改築工事に伴う発掘調査

調査概要 この調査は国土交通省松江国道事務所から委託を受けて昨年度から実施しており、御堂谷遺跡、尾ノ上遺跡、平ノ前遺跡、桜田遺跡の4遺跡と諸友大師山横穴群で新たに発見された横穴墓の調査を行った。



大田静間道路発掘遺跡位置図 (1/25,000 石見大田・大浦)

(1) 御堂谷遺跡

本遺跡は大田市長久町・鳥井町にまたがる標高約46～56mの丘陵の平坦面に位置する。東西にA・B区の2つの

調査区を設けて、調査を行った。現地調査期間は平成29年6月20日～12月14日、調査面積は4,100㎡、調査員3名と補助員3名(9月から2名)の体制で実施した。

遺構の概要 調査の結果、A区では、弥生時代後期の竪穴建物跡2、古墳時代中期の竪穴建物跡2棟、弥生時代後期の加工段1、古墳時代中期の加工段3、落とし穴4などの遺構が確認された。B区では、弥生時代中期の竪穴建物跡1、弥生時代後期の竪穴建物跡4、古代の竪穴建物跡1、掘立柱建物跡3、などの遺構が確認された。その他、A・B区ともに多数の柱穴が検出された。

遺物の概要 A・B区ともに包含層、各遺構内から遺物の出土がある。特に弥生土器(弥生時代前期)が包含層中から多量に出土している点は注目される。また、灯明皿など古代の山岳寺院関連の遺物も出土している点で特徴がある。

まとめ 今回の調査でA区・B区合わせて、竪穴建物跡12棟など多数の遺構が丘陵上に位置することがわかった。御堂谷遺跡は、弥生時代中期～古代にかけての大規模な集落遺跡であり、出土遺物から山岳寺院の存在もうかがわせる。御堂谷遺跡の所在する同一丘陵の西側には、ほぼ同時期の鳥井南遺跡が所在し、当該地域における弥生時代中期～古代までの集落様相を知る上で貴重な調査となった。(仁木 聡・吉松優希)



御堂谷遺跡

(2) 諸友大師山横穴IV群1号穴

本横穴は、大田市久手町刺鹿に所在する諸友大師山横穴墓群の新支群である。これまで知られていた諸友大師山横穴墓群の南西約200mの位置に所在する。工事中に発見され、急遽調査を行った。現地調査期間は、平成29年12月18日～12月22日、調査面積は140㎡、調査員2名、補助員1名の体制で実施した。

遺構の概要 調査の結果、大きく後世の削平を受けており、現状で玄室奥壁から70cmまでの部分でしか、築造当時の状況を残していない。奥壁部での幅は1.5m、高さ1.46mで、天井構



諸友大師山横穴IV群1号穴

造はドーム天井と想定される。

遺物の概要 今回の調査では、遺物は出土しなかった。

まとめ これまで諸友大師山横穴墓群は、Ⅰ群5穴、Ⅱ群2穴、Ⅲ群8穴が調査されている。今回の調査で様々な支群を形成し、築造が行われた横穴墓群であることがわかった。(仁木 聡・吉松優希)

(3)尾ノ上遺跡

本遺跡は大田市鳥井町鳥越に所在し、大田市北部の鳥井丘陵東側の麓近くにあつて、標高25～30mに立地する。尾ノ上遺跡では、調査区内の最上部で弥生時代後期の墳墓を確認した。本事業地内の前節(1)御堂谷遺跡の80m東、比高差にして約20m下に位置している。現地調査期間は平成29年7月7日～同年11月24日、調査面積は556㎡、調査体制は、調査員2名と調査補助員3名である。

遺構等の概要 調査の結果、箱式石棺(長さ1.5m、幅0.4～0.5mいずれも残存状況から)を納める墓坑(長軸2.5m、幅0.8～1.15m、平面卵型)を埋葬主体とする弥生時代後期の墳墓1基を確認した。この墳墓については、墳丘の流出や後世の削平等によって、箱式石棺を含む墓坑下部が崩壊して残っただけで、墳墓自体の形状や規模、外表施設を含む構造については不明である。箱式石棺の一部も消失し、広葉樹の木の根に浸食されている。石棺に伴う遺物も、小さい土器片が出土したのみであった。しかし、墳墓の立地が谷地形に面した小高い地形の突端であることから、このような地形を利用して造営された可能性が考えられる。

また、墓壇の北側斜面で出土した小規模な石組み遺構2基(いずれも長さ約50cm、幅25～30cm、こぶし大の石5個～10個で構成される。)から出土した土器群が、弥生時代後期(V-2様式)のものであったことから、墳墓の築造時期もこのころと推定される。石棺の石材は安山岩で、遺跡が立地する山塊中にも同様の岩塊があり、供給源の可能性が高い。

さらに、弥生時代～平安時代の遺物包含層が堆積する谷地形を墳墓の北側で検出した。谷地形は、幅約6.5m、深さ1～2m、東西延長30mにわたる規模であった。墳墓や谷地形を含む尾ノ上遺跡の直接の基盤は、約7万年前の三瓶山の火山噴出物の堆積であるが、この基盤を侵食してできた谷底に、一抱えもある石がまとまって落ち込んでいる状況を検出した。谷に落ち込んでいる石の材質は、安山岩、デイサイト、凝灰岩、流紋岩など、いずれも、この山塊中の岩塊から供給されたか、もしくは、数キロメートル以内の近隣で産出されるものである。上記箱式石棺の墳墓が築造される頃には、この谷地形は墳墓の裾あたりまで埋まっていたと考えられる。谷が埋まってからは、9世紀代に整地層が形成されている。

まとめ 尾ノ上遺跡で箱式石棺を埋葬主体とする弥生時代後期の墳墓を確認した。尾ノ上遺跡が立地するこの丘陵には、本事業地内の御堂谷遺跡や大田市内でも著名な鳥井南遺跡がある。この丘陵全体を舞台として展開したこれらの遺跡の調査成果と合わせて検討する上で貴重な資料となると思われる。

(大庭俊次)



尾ノ上遺跡A区箱式石棺

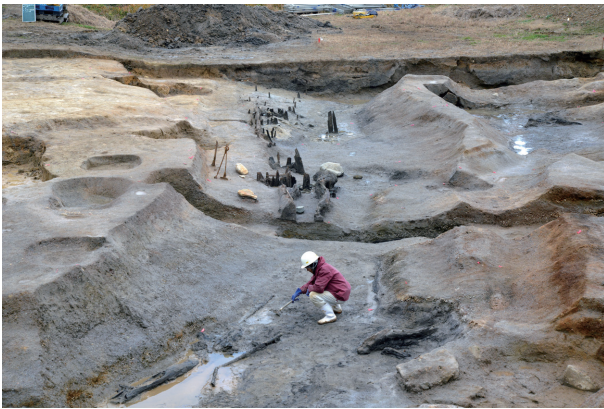


尾ノ上遺跡A区墳墓調査状況

(4) 平ノ前遺跡

本遺跡は大田市静間町に所在し、大田市内を流れる静間川が日本海にそそぐ河口付近、標高4～5.5mの沖積平野に立地する。現地調査期間は平成29年10月25日～12月28日、調査面積は520㎡。調査体制は、調査員2名と調査補助員3名である。

遺構等の概要 調査の結果、平ノ前遺跡では、前年度に調査した部分に続き、飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物1棟（SB07、総柱建物）と、弥生時代の流路跡2条（SD05－後期）を検出した。総柱の掘立柱建物は、梁間（東西）1.5m、桁行（南北）2.4m、柱穴の平面形は隅丸形状で、それぞれの規模は辺1.05～1.15m（残存値）を測る。後世の削平を受けて底部近くしか残らず、柱穴の深さは不明である。なお、SB07の南西には、前年度調査で同様の規模構造の建物跡を同じ主軸で確認している。弥生時代の流路は、北東に向かって流れるSD05（幅約5m、深さ約70cm、調査区内延長約20m）と、このSD05に切られるSD10（幅約1.5～3m、深さ約20cm）を並行して検出した。SD05内では、石や木製品で作られた、流路と並行する導水施設と、堰を作って流水を振り分ける水利施設の遺構を確認した。この時期に、水田耕作など水利施設を利用した農耕が行われていた可能性がある。（大庭俊次）



平ノ前遺跡 SD05 調査状況



平ノ前遺跡 SB07 掘立柱建物跡

(5) 桜田遺跡

本遺跡は大田市鳥井町に所在し、大田市北部の鳥井丘陵西側にあり、北に向かって開ける谷の西側斜面、標高18～26mに立地する。現地調査期間は平成29年12月13日～平成30年2月14日、調査面積は871㎡。調査体制は、調査員2名と調査補助員3名である。

遺構等の概要 調査の結果、古墳時代後期の横穴墓1基と、近世以降のものと思われる石切場を確認した。横穴墓は東に向かって開口している。玄室床面は奥壁に向かって撥状に広がり、奥行2.2m、幅1～1.7m、高さ1.6m、天井幅1.3mを測り、床面幅に比べて室内が高く広いドーム状の空間構造となっている。石切場は横穴墓の北側で同じ岩盤（凝灰岩）を穿ち、高さ最高3m、南北60mに渡って展開する。石切の最小単位は1mに満たないものがある。石切場の最前には岩盤を穿って排水溝が切られている。工具痕跡から近世以降の操業と思われる。

（大庭俊次）



桜田遺跡 1号横穴墓（左）と石切場（右）

3. 一般国道9号（静岡仁摩道路）改築工事に伴う発掘調査

事業概要 この調査は、国土交通省から委託を受けて平成25年度から実施している。今年度は、松林寺遺跡の調査を調査員1名、調査補助員2名で実施した。

(1) 松林寺遺跡

本遺跡は、大田市仁摩町大国に位置し、南を向く丘陵の斜面に位置する。遺跡の標高は約34～43mである。昨年度に引き続き、現地調査を平成29年9月6日から11月27日まで実施した。4月に実施した試掘確認調査の結果に基づき、丘陵斜面に二カ所の調査区を設定した。東側の広い方を1区、西側の狭い方を2区とした。調査面積は合計約650㎡である。

遺跡の概要 1区の遺構として加工段1、土坑1、ピット2基を確認した。斜面が急なためか、この他の遺構は見つからなかった。また、昨年度確認した谷状の地形の延長部分を確認することができた。2区の遺構として細い溝の両側に石を置いた石列、一部が露出していた階段を確認した。なお、石列は斜面に盛土をして平坦に造成している部分に築かれていた。

1区の遺物の時期は弥生時代後期から古墳時代前期である。弥生土器や土師器の壺、甕、高環、鼓形器台などが斜面から出土した。遺物は斜面の下の方が多かった。2区の遺物の時期は江戸時代以降の陶磁器を確認した。石列には江戸時代以前の可能性をもつ石塔を転用したものがあつた。

10月30日に1区について高田健一氏（鳥取大学地域学部准教授）に調査指導を受けた。また、11月19日には大国まちづくりセンターの文化祭にパネルや出土品を展示した。

まとめ 松林寺遺跡の1区では遺構が少なかった一方、斜面の下方を中心に遺物が出土したことから、調査区のさらに上方、調査箇所の外側に遺跡が広がっている可能性が高い。また、2区の石列や階段の時期を明らかにすることはできなかったが、転用された石塔の存在から、江戸時代以前の施設の存在をうかがうことができた。

（中川 寧）



松林寺遺跡位置図



松林寺遺跡1区完掘



松林寺遺跡2区完掘

4. 一般国道 9 号（三隅益田道路）改築工事に伴う発掘調査

事業概要 この調査は浜田河川国道事務所から委託を受けて平成 27 年度から実施している。今年度は、浜田市三隅町内で角落し遺跡、峠口古墓の調査を、益田市西平原町内で蔵廻り遺跡の調査を行った。

(1) 角落し遺跡

調査概要 角落し遺跡は浜田市三隅町の丘陵裾部に位置する。平成 27 年度に 1～5 区の本調査を行っており、今年度の調査区（6 区）はこれらに南接している。現地調査期間は平成 29 年 5 月 8 日～9 月 21 日、調査面積は 500㎡、調査体制は調査員 1 名、嘱託員 1 名、調査補助員 2 名である。

遺構の概要 上層では、木樋状遺構、杭列、列状に並んだ板材・自然木を検出した。列状に並んだ木材は、水田畦畔の構築材と考えられる。木製品が多数出土し、田下駄など農具の転用されたものを多く含んでいた。出土した土器から、年代は平安時代後期～鎌倉時代とみられる。下層からも多量の木製品が出土した。組成は建築部材の転用品が主であり、出土した土師器から古墳時代前期に属する。最下層では棒状の木製品が列状に直線的に検出された。時期は弥生時代前期とみられる。

まとめ 弥生時代や古墳時代の木製品が多量に出土し、当時の木材加工技術をうかがわせる良好な資料が得られた。また、上層で確認された水田関連の遺構や木材は、中世前期における水田開発の具体相を示す資料である。



角落し遺跡・峠口古墓位置図



下層木製品出土状況



木樋検出状況

(2) 峠口古墓

峠口古墓は浜田市三隅町の丘陵斜面に位置する。平成 27 年度に行った試掘調査の結果を受け、今年度本調査を実施した。現地調査期間は平成 29 年 8 月 1 日～9 月 29 日、調査面積は 789㎡、調査体制は調査員 1 名、調査補助員 1 名である。

遺構の概要 石組み基壇 3 箇所、加工段 4 面を確認した。基壇 1 は、調査前から地表面に露出しており、石塔が破損した状態で分布していた。石塔は福光石製の一石五輪塔で、少なくとも 3 個体存在したようである。出土した陶磁器片から、基壇の年代は 18 世紀に属する。他に礫を組み合わせで作られた基壇 2 基を

確認しているが、年代は不明である。

加工段は4面確認された。一番下の加工段には建物礎石と考えられる平坦な礫が確認された。出土遺物から、18世紀には建物が存在していたと考えられる。

まとめ 基壇1で出土した五輪塔は1600年前後に造られたもので、基壇が造られた後に現位置へ移設されたと考えられる。福光石製石塔が17世紀初頭に三隅地域まで分布していたことが確認された。



嶺口遺跡基壇1



嶺口遺跡基壇3

(3) 蔵廻り遺跡

蔵廻り遺跡は益田市西平原町の平野部に位置する。平成27年度に行った試掘調査の結果を受け、今年度本調査を実施した。現地調査期間は平成29年9月8日～12月20日、調査面積は1,600㎡、調査体制は調査員1名、調査補助員3名である。



蔵廻り遺跡位置図

遺構の概要 調査区の北端では大規模な水路跡を検出した。一端が調査区外に想定されるため、正確な規模・形状は未確定であるが、水路跡の幅は10mを超える。出土遺物から、水路跡の埋没時期は15～16世紀と推定される。水路の埋没後の18世紀に木と石を組み合わせた遺構が構築された。土止め、道路、水路等の機能を有していたとみられる。他にピットが50穴以上検出されており、一部は11世紀後半～12世紀前半にさかのぼる。出土遺物は、15～16世紀を中心とする中世の輸入陶磁器、18世紀以後の陶磁器が出土している。

まとめ 遺物の組成は、陶磁器、茶道具などの奢侈品に偏っており、日常雑器がほとんど含まれないことから、周辺に有力者が居住していたと考えられ、大規模水路の開削主体でもあった可能性がある。中世後期における当地域の開発の歴史を示す資料である。
(久保田一郎)



木組み・石組み遺構 (近世)



水路跡 (中世)

5. 国道 432 号（大庭バイパス）建設に伴う発掘調査

調査概要 この調査は島根県土木部から委託を受けて平成 23 年度から実施している。今年度は 4 月に実施した試掘確認調査により新たに発見した川原宮Ⅲ遺跡の調査をおこなった。対象面積 370 m²を 9 月 19 日から 12 月 12 日まで、調査員 1 名と調査補助員 2 名により調査した。

(1) 川原宮Ⅲ遺跡

遺跡の概要 遺跡は松江市南郊の大庭町地内に所在する。茶臼山（標高 171.5 m）西南麓に立地し、西側には広い谷地形が広がる。調査前は宅地として利用されており、厚さ 0.5 m～1.4 m 盛土されていた。地山は大山松江降下軽石層で、その上面には調査区の東半を中心として、硬いマンガンバンドがみられた。地山は標高 20.4～20.0 m で谷に向かって下がっている。造成が地山面まで深く及んでいるため、遺物は近代を中心とし、それより古い時代の遺物は少量しか含まれていない。地山面で柱穴跡 100 基あまりと溝跡 6 条、土壇 3 基などを検出した。

建物の柱穴は直径 30cm～40cm、深さは 30～60cm である。柱穴からは室町時代の土師器坏、青磁碗、備前焼が出土している。建物は復元できなかったが、柱穴 60 あまりは当該期の建物に伴うものと推定した。建物跡は調査区外の西側にむけて広がっていると考えられる。

大溝は調査区東端を南から北に延び、調査区北端で西に折れ曲がる。延長距離は約 19 m、底面の標高は 20.3～20.5 m である。ほぼ中央で上端幅約 4.5 m、下面幅 3.77 m、深さ 75cm である。西（谷）側に折れ曲がるあたりから狭くなっている。大溝は人為的に埋められており、埋土から古代の須恵器・土製支脚、中世の播り鉢（産地不明）、15 世紀の備前焼甕、青磁碗が出土している。

大溝は調査区東端を南から北に延び、調査区北端で西に折れ曲がる。延長距離は約 19 m、底面の標高は 20.3～20.5 m である。ほぼ中央で上端幅約 4.5 m、下面幅 3.77 m、深さ 75cm である。西（谷）側に折れ曲がるあたりから狭くなっている。大溝は人為的に埋められており、埋土から古代の須恵器・土製支脚、中世の播り鉢（産地不明）、15 世紀の備前焼甕、青磁碗が出土している。

まとめ 調査では室町時代の区画溝と建物の柱穴群、近世の土壇などを検出した。遺跡の西には谷が迫っており、広い敷地を確保することは難しく、主要施設は遺跡の東側に存在する可能性が高い。今回の調査は遺構の規模・性格など不明な点が多いものの、中世大庭地域の土地利用について、新たな知見を加えることができ、その意義は大きいと考える。

（間野大丞）



川原宮Ⅲ遺跡位置図



川原宮Ⅲ遺跡 調査区全景



川原宮Ⅲ遺跡 大溝完掘後

6. 一般県道矢尾今市線建設に伴う発掘調査

調査概要 この調査は島根県土木部から委託を受けて平成 22 年度から実施している。今年度は高浜 I 遺跡の調査をおこなった。対象面積 1,000㎡を 5 月 22 日から 9 月 4 日まで、調査員 1 名と調査補助員 3 名により調査した。

(2) 高浜 I 遺跡

遺跡の概要 遺跡の概要 高浜 I 遺跡は県道斐川・大社線の北側から一畑電鉄大社線の南側にかけて広がる大規模な集落跡である。平成 22・23 年度に行われた 1 区の調査では、15～16 世紀の居館跡を検出し、日本最古級の将棋盤など特殊な遺物が出土した。また平成 26 年度に行われた 2 区の調査では 16 世紀から 17 世紀にかけての建物跡などを検出している。今年度は 1 区と 2 区の間、3-1 区・3-2 区を対象とした。3-1 区では遺構が確認されず、3-2 区では柱穴



高浜 I 遺跡位置図

50 基あまりと溝 5 条、土壇 5 基、墓 2 基のほか、自然河道 2 条を検出した。自然河道 NR01 は南寄りを東西方向に延びる。規模は幅 3～4 m 前後、深さ 40～60cm、底面の標高は 2.6 m～3.0 m 前後である。埋土の上層から土師器・青磁の破片、杓子状木製品、漆器碗が出土している。NR02 は 3-1 区の中央から 3-2 区の西端をかすめるように南北方向に延びる。埋土から土師器、五輪塔水輪部が出土している。柱穴群は NR01 の東側で検出したが、建物は復元できなかった。NR01 埋め戻し後に開削された SD01 は幅 90～110cm 前後、深さ 20cm である。石が多数含まれており、溝の埋没時に投棄されたと考えられる。近世の古墓 SX01 は NR01 埋没後に造られている。木棺は底板が無く、墓壇底面に並べた棒(枝)を側板と小口板で挟む構造である。人骨の状況から、頭を東、顔を南に向けた横臥屈葬に復元される。このほか包含層から中世土師器を中心に備前焼播り鉢、李朝陶器などの陶磁器類のほか、滑石製石鍋、紹聖元寶(北宋 1094 年初鑄)、鍛冶関連遺物などが出土している。

まとめ 今回の調査結果から、3 区は中心的な居住域の縁辺部に位置するものと考えられる。居住域の存続時期はおおよそ 16～17 世紀代と推定され、3 次わたる調査により出雲平野の中世集落の一端を明らかにすることができた。

(間野大丞)



調査区近景



古墓 SX01

7. 一級河川江の川直轄河川改修事業（川平地区・森原地区）に伴う発掘調査

調査概要 この調査は国土交通省浜田河川国道事務所から委託を受けて平成 29 年度から実施している。今年度は、森原神田川遺跡と田淵遺跡の調査を行った。

(1) 森原神田川遺跡（森原地区）

本遺跡は江津市松川町太田に所在し、江の川下流の右岸に開けた小規模な平野部の自然堤防～後背低地上に立地する。標高は約 6 m であり、現状で水田や畑地として利用されている。現地調査期間は平成 29 年 5 月 19 日～ 12 月 1 日、調査面積は 2,300㎡、調査体制は調査員 1 名、嘱託職員 1 名、調査補助員 2 名で実施した。

遺構の概要 現水田耕作土を約 2 m 掘り下げた深さで江戸時代前期以前とみられる水田跡を 2 層（第 1・2 遺構面）にわたり検出し、その下層には砂層が堆積する（第 3 遺構面）。また、江の川沿いの調査区西側では自然堤防の高まりが南北方向に延びており、自然堤防の内側（東側）を水田耕作地として利用した様子がうかがえる。

第 1 遺構面では、北東方向に平行して延びる 2 条の畦畔によって区画された水田跡を 3 枚確認した。水田の区画は畦畔の形状から短冊形とみられ、畦畔間の幅は約 18 m を測る。また、水田面からは人や牛とみられる蹄が 2 股に分かれた動物の足跡も総数 500 点以上検出された。水田跡を覆う粘土層や耕作土内から 17 世紀代の肥前系陶磁器が出土することから、水田跡は江戸時代前期に耕作が営まれたと考えられる。

第 2 遺構面は第 1 遺構面で検出した水田耕作土の直下層にあたり、第 1 遺構面と同様に水田跡を 3 枚確認した。畦畔の位置や向きは第 1 遺構面の水田跡と変わっておらず、区画や畦畔間の幅もほぼ同様である。また、各水田面からは多数の人や牛の足跡が検出された他、第 1 遺構面の水田跡を犁で耕した痕跡とみられる幅 10～20cm の筋状溝をほぼ全面で多数検出した（犁溝）。水田跡の時期は、出土遺物や層位から中世末～江戸時代初頭頃と考えられる。

第 3 遺構面は水田を開発するために自然堤防を広い範囲で平坦に開墾・整地した面と考えられ、後の水田面の区画となる 2 条の畦畔がこの段階で砂層を削り出して作られていることが確認できた。また、平坦面からは第 2 遺構面の水田跡を犁で耕した痕跡とみられる犁溝群を検出した。

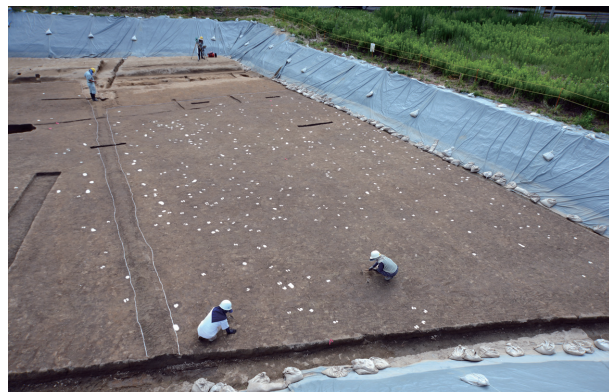
この他、調査区西側の自然堤防上から畚跡とみられる畝状遺構を検出した。出土遺物は肥前系陶磁器の他、龍泉窯系の青磁碗や中国産施釉陶器等の破片も出土した。



森原神田川遺跡・田淵遺跡位置図
(1/25000; 浅利・川戸を元に作成)



遺跡遠景



第 1 遺構面 水田跡 1

まとめ 今回の調査では、中世末～江戸時代前期に開発・営農されたとみられる水田跡を上下2面検出することができた。この水田跡は江の川の沖積作用により形成された自然堤防を開墾・整地し、その上に耕作土を盛って構築されるなど大規模な新田開発の様子が明らかとなった。

また、水田跡からは畦畔や足跡、犁による水田耕作の痕跡を確認し、自然堤防上からは畝跡を検出するなど、当時の農耕の様子や土地利用、農村景観を知る上で貴重な調査例となった。遺跡の立地する松川町太田は、近世には石見銀山領に属していた。近世前半、全国各地の幕府領で奉行・代官による新田開発が行われており、本遺跡の水田跡もそうした状況の中で開発された可能性が高いとみられる。今回の調査は、石見銀山領における新田開発の実態を検討する上で画期的な成果となった。(深田 浩)

(2) 田淵遺跡(川平地区)

本遺跡は江津市川平町南川上に所在し、江の川本流とその支流である奥谷川に挟まれた段丘上に位置する。標高は約10mである。現地調査は平成29年5月15日から10月30日まで、調査員1名、調査補助員2名の体制で実施した。調査面積は約950㎡で、工程の都合上、東西に調査区を分けて実施した。

調査概要 本遺跡周辺は江の川本流に近い低地にあり、近年まで度々洪水に見舞われてきた。遺跡内においても、浸水による薄い砂層と耕作土が幾重にも堆積しており、古くからこうした環境にあったことが想定される。層位はおおよそ3時期に区分できる。最上層は近年までの洪水層および耕作土、2層目は江戸時代(16～18世紀)の耕作土であり、3層目は鎌倉・室町時代(12～14世紀)を中心とする複数の遺構面を含む堆積土である。

調査では、12世紀後半～13世紀にかけての遺構面が4面確認された。特に第2遺構面では、建物跡こそ確認できなかったが、約2.3～2.5m間隔でほぼ東西に並ぶ柱穴列が検出され、柵もしくは塀が存在したと考えられるが、これに伴うような建物跡は確認できなかった。この時期の居住域は、より標高の高い調査区外にあった可能性が高い。また第3遺構面では、柱穴を伴う小鍛冶炉2基を確認した。いずれも残存部径約80cm、深さ10～15cmほどの浅い土坑で、底面は薄い炭層で覆われており、埋土中には羽口破片のほか鍛造剥片、滓片が残っていた。何らかの建物や覆屋を伴った可能性が高いが、具体的な配置や構造は把握できなかった。第4遺構面では、約4.0m四方の範囲から大量の土師質土器が出土した。これらは橙色系、白色系の坏・皿で構成され、供宴等で使用後一括して廃棄されたと考えられる。

出土遺物は、前記の土師質土器が多くを占め、在地系と考えられる須恵器や陶器類、東播系鉢、土錘、鉄製紡錘車、滑石製温石などがある。また龍泉窯系、同安窯系の青磁碗や、皿や合子などの白磁類が出土している。12世紀後半から13世紀初頭の遺物を主体とするが、多少時期が下るものも含んでいる。山陰地域では希な、ビロースク系白磁も少ないながら確認できた点も特筆される。

まとめ 田淵遺跡では、鎌倉時代から室町時代にかけての柱穴列や小鍛冶炉、一括廃棄された土師質土器群、貿易陶磁類などがまとまって確認された。出土遺物の内容を考慮すると、当地の有力者の屋敷や寺社などが近隣に存在した可能性が高い。江の川下流域ではこれまで発掘調査が少なく、中世前半期の遺跡はほとんど知られていなかったが、今回の調査によって地域の様相を知る貴重な資料が得られたといえる。(増田浩太)



田淵遺跡西区調査状況(平成29年10月)



中世の土師質土器出土状況

VII 学術調査

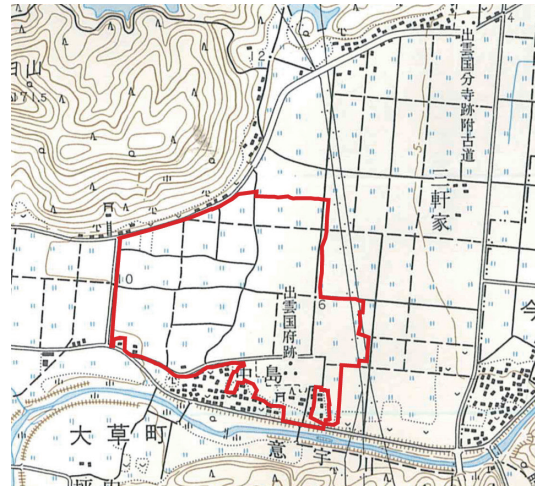
(1) 史跡出雲府跡

調査概要 国庫補助事業として平成 11（1999）年度から出雲国府跡の発掘調査を行っている。平成 29 年度は六所脇地区（政庁域）で政庁正殿もしくは後殿と推定される SB20（四面廂付建物跡）及びその周辺 170㎡と宮の後地区（曹司域）の南側 50㎡、合計 220㎡を発掘調査した。現地調査は 6 月 5 日～12 月 4 日まで、調査員 1 名、補助員 2 名で実施した。

遺構の概要 六所脇地区では、SB20 で掘立柱建物跡 2 棟と礎石建物跡 1 棟を検出した。重複関係から SB20A（掘立柱建物跡）→SB20B（掘立柱建物跡）→SB20C（礎石建物跡）への変遷が考えられる。建物は身舎が 2 間×3 間の四面廂付で、主軸は正方位を向き、ほぼ同じ位置で建て替えが行われている。SB20A と SB20B では柱掘方と柱抜取穴を検出し、SB20C では根石を検出した。また SB20C では抜かれた後に落とし込まれた礎石を 1 点検出した。また、SB20 の北側で別の礎石建物跡 1 棟を検出した。この建物跡は 1 間×2 間以上の建物跡で、平成 28（2016）年度に検出した 27 号建物跡の一部と考えられる。宮の後地区では深さが 30 cm で底面に円礫を敷く池状の施設を検出した。昭和 44（1969）年度と平成 27（2016）年度の調査成果から、幅 10m 以上、長さ 14m 以上で、平面形が方形であったと考えられる。上層は 10 世紀～11 世紀の土器を大量に含む黒色造成土が堆積し、この時期には埋め立てられたと考えられる。

遺物の概要 7 世紀末～9 世紀代の遺構面までの埋土からは 9 世紀後半から 12 世紀の土師器が多く出土し、遺構の基盤層からは 7 世紀代の土師器と須恵器が多く出土している。また、墨書土器が 4 点出土している。この他に柱根が SB20B の掘方から 1 点、宮の後地区で 1 点出土した。

まとめ SB20 については掘立柱建物跡から礎石建物跡への変遷を確認することができ、政庁の変遷を検討する上で貴重な発見となった。また、宮の後地区では池状の施設を検出したことで、政庁周辺の土地利用の状況や変遷を検討する上で貴重な資料を得ることができた。（是田 敦）



出雲国府位置図



SB20 検出状況



池状の施設

(2) 考古基礎調査研究（墓制調査）

この事業は、島根県古代文化センターと島根県埋蔵文化財調査センターが共同で実施するもので、今年度は東百塚山古墳群の測量調査と過去に調査した遺跡の報告書作成を行った。東百塚山古墳群の測量調査は平成 27 年度までに行った測量調査の補測として 5 月、12 月、1 月のべ 8 日間実施した。報告書については上竹矢 7 号墳、東百塚山古墳群、古天神古墳、安部谷古墳の調査成果について掲載する予定としている。

(3) 考古資料基礎調査研究（出土品再整理事業）

当事業は、過去に県教育委員会が発掘調査を実施して現在当センターで収蔵している出土品のうち、報告書非掲載遺物を中心に再整理を実施してその内容を明らかにするとともに、市民が容易に利用できるようデータベース化をはかることを目的として実施しており、今年度が 5 年目となる。

今年度からは新たに朝酌川遺跡群（松江市西川津町ほか）に着手し、初年度になる今年度は既刊報告の西川津遺跡 I（島根県教育委員会 1980）の掲載・非掲載遺物の再整理を実施した。

(4) 保存処理・理化学分析

遺跡から発掘された遺物の多くが、木製品は水漬けパック、金属製品が酸化防止システムでのパックという状態で「仮保管」されている。「仮保管」では遺物の劣化が進みやすく、展示などの活用が制限されてしまうため、これらの問題を解消するために年間を通して継続的に作業を進めている。

水漬け木製品は、遺物の状態によってポリエチレングリコール（PEG）と糖アルコールでの保存処理を使い分けている。自然乾燥してしまった木製品はアクリル樹脂を塗布、又は含浸することで強化し遺物の形状を維持する。金属製品はクリーニング、脱塩、アクリル樹脂の減圧含浸による防錆・強化を行なっている。処理後の遺物は温湿度管理下において保管している。上記以外の材質の遺物も、脆弱なものに対して随時、処置を施す。

赤外線観察・X 線撮影・蛍光 X 線分析に関しては、調査現場、報告書撮影、保存処理での活用のほかに、市町村教育委員会・大学等を対象とした撮影・分析も行なっている。

平成 29 年度 作業実績

出土遺物の保存処理は、未処理または、一度保存処理を施されているが状態が悪化したものについて、表 1・2 のとおり実施した。保存状態や活用機会の可能性を考慮して、保存処理計画を作成するとともに、古代出雲歴史博物館の展覧会や外部機関への貸し出しに対応するために、随時計画を調整して保存処理を進めている。

また、調査現場からの要請を受け、脆弱な遺物に応急処置を施した。

理化学分析は表 3 のとおり実施した。これらの分析結果は報告書作成等に反映された。

（澤田正明・上山晶子）

①保存処理業務実績

表1 木製品

遺跡名	掲載番号	資料名	処理方法	実施状況
一般国道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書8(1996)				
岩屋口南	131図-1	舟形木製品	アクリル樹脂塗布	処理中
岩屋口南	131図-2	田下駄	アクリル樹脂塗布	処理中
遺跡名	掲載番号	資料名	処理方法	実施状況
朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書IV(海崎地区2)(1988)				
西川津	125図-77	狭鉞	トレハロース含浸	処理中
西川津	153図-229	匙	トレハロース含浸	処理中
西川津	153図-231	匙	トレハロース含浸	処理中
西川津	153図-233	匙	トレハロース含浸	処理中
西川津	157図-249	狭鉞	トレハロース含浸	処理中
西川津	158図-256	匙	トレハロース含浸	処理中
西川津	164図-284	広鉞	トレハロース含浸	処理中
遺跡名	掲載番号	資料名	処理方法	実施状況
朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書V(海崎地区3)(1989)				
西川津	78図-40	広鉞	トレハロース含浸	処理中
西川津	81図-52	広鉞	トレハロース含浸	処理中
西川津	90図-106	匙状容器	トレハロース含浸	処理中
西川津	90図-107	匙状容器	トレハロース含浸	処理中
遺跡名	掲載番号	資料名	処理方法	実施状況
朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書III(1990)				
タテチョウ	204図-W339	方形曲物	トレハロース含浸	処理中
タテチョウ	223図-W434	桜皮	トレハロース含浸	処理中
タテチョウ	223図-W435	桜皮	トレハロース含浸	処理中
朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書IV(1992)				
タテチョウ	94図-W39	アカトリ状製品	トレハロース含浸	処理中

遺跡名	掲載番号	資料名	処理方法	実施状況
国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10(2012)				
山持	50図-1	礎盤	トレハロース含浸	処理中
山持	50図-2	礎盤	トレハロース含浸	処理中
山持	50図-3	礎盤	トレハロース含浸	処理中
山持	50図-4	礎盤	トレハロース含浸	処理中
山持	50図-5	礎盤	トレハロース含浸	処理中
山持	50図-6	礎盤	トレハロース含浸	処理中
山持	55図-1	柱	トレハロース含浸	処理中
山持	55図-2	柱	トレハロース含浸	処理中
山持	55図-3	柱	トレハロース含浸	処理中
山持	55図-4	柱	トレハロース含浸	処理中
山持	55図-5	柱	トレハロース含浸	処理中
山持	59図-1	柱	トレハロース含浸	処理中
山持	59図-2	柱	トレハロース含浸	処理中
山持	59図-3	柱	トレハロース含浸	処理中
山持	59図-4	礎盤	トレハロース含浸	処理中
山持	59図-5	礎盤	トレハロース含浸	処理中
山持	59図-6	礎盤	トレハロース含浸	処理中
一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業(大塚工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3(2016)				
高浜 I (2区)	116図-3	柱	トレハロース含浸	処理中

表2 金属製品

遺跡名	掲載番号	資料名	材質	処理方法	実施状況	備考
中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書16(2009)						
鉄穴内	123図-M7	鍛未成品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	132図-M30	鉄鉗	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	132図-M31	未製品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	150図-M87	未製品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	150図-M95	棒状不明品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	150図-M98	棒状不明品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	196図-M271	鉄鉗	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	196図-M274	鑿	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	196図-M275	鑿	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	196図-M278	未製品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	196図-M279	未製品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	197図-M287	環状品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	197図-M289	刀	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	197図-M291	板状不明品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	197図-M294	棒状不明品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	198図-M299	釘	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	198図-M300	釘?	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	198図-M302	釘?	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	198図-M307	釘?	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	210図-M373	不明品	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	243図-M416	鉄鎌	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理
鉄穴内	(仮)非-1	鉄塊	鉄	クリーニング・脱塩・アクリル樹脂(パラロイドNAD10)含浸	処理中	再処理

②理化学分析

X線撮影と赤外線撮影は古代出雲歴史博物館において連携して行なった。

表3 蛍光X線分析 ※平成29年1月4日～12月28日までに依頼があったもの

実施日	依頼者	内容	点数	備考
5月30日～7月28日	出雲市	京田遺跡出土遺物に付着した赤色顔料の同定	21	
5月30日～7月28日	島根県埋蔵文化財調査センター	京田遺跡出土遺物に付着した赤色顔料の同定	19	
7月11日	江津市教育委員会	本町川通り遺跡出土鉄滓・森原上原遺跡出土土器付着成分の同定	6	
9月11日	出雲市	上塩冶築山古墳出土鉄環の材質同定	2	

(5) 試掘確認調査・分布調査

国庫補助事業として以下のとおり実施した。

①平成 29 年度 試掘確認調査実績

事業名	名称等（試掘実施時）	所在地	現地調査期間	実施した調査 （トレンチ面 積合計）	調査概要
一般国道 9 号（出雲湖陵道路） 改築事業予定地	奥ノ谷遺跡	出雲市湖陵町常楽寺 294-8	4月17日～ 4月20日	トレンチ 1 カ所 （約 16㎡）	遺構・遺物なし
	御領田遺跡	出雲市湖陵町常楽寺 193-3 外	4月21日～ 5月15日	トレンチ 7 カ所 （77㎡）	陶磁器（近世以降） 土師質土器（時期不明）
	柿木田家下遺跡	出雲市湖陵町常楽寺 297	11月27日～ 12月6日	トレンチ 6 カ所 （35㎡）	遺構・遺物なし
	常楽寺柿木田古墳群	出雲市湖陵町常楽寺 940-5 外	12月7日・ 12月8日・ 12月15日	トレンチ 1 カ所 （約 15㎡）	遺構・遺物なし
	御領田遺跡	出雲市湖陵町常楽寺 182-6 外	12月14日	トレンチ 2 カ所 （32㎡）	遺構・遺物なし
一般国道 9 号（大田静間道路） 改築事業予定地	諸友西横穴墓群	大田市久手町刺鹿	4月17日～ 5月2日	トレンチ 8 カ所（38 ㎡）	須恵器片、青磁片ほか
一般国道 9 号（静間道路）改築 事業予定地	松林寺遺跡	大田市仁摩町大国 300-3 外	4月18日～ 4月28日	トレンチ 4 カ所（25 ㎡）	遺物出土
	垂水遺跡	大田市静間町 752-6 外	12月4日～ 12月7日	トレンチ 5 カ所（15 ㎡）	遺物出土
一般国道 9 号（三隅益田道路） 改築事業予定地	要注意箇所	浜田市三隅町岡見	6月5日～6 月15日	トレンチ 5 カ所（60 ㎡）	遺物・遺構なし
国道 432 号大庭バイパス改築 事業予定地	川原宮Ⅲ遺跡	松江市大庭町	4月17日～ 4月28日	トレンチ 4 カ所（34 ㎡）	溝・柱穴検出
一級河川江の川直轄河川改修事 業予定地	太田工区	江津市松川町太田 158-1 外	10月16日～ 10月20日	トレンチ 4 カ所 （65㎡）	遺構・遺物なし
	森原神田川遺跡 2 区	江津市松川町八神 241 外	10月23日～ 10月25日	トレンチ 4 カ所 （24㎡）	包含層、縄文土器・土 師器・須恵器・土製品

②平成 29 年度 分布調査実績

計画事業名	調査地	調査期間	市町村協力など
松江北道路建設予定地	松江市古曾志町外	平成 29 年 9 月 6 日	松江市教育委員会
県営矢原川ダム事業予定地	浜田市三隅町矢原 益田市美都町丸茂外	平成 30 年 2 月 19 日～ 21 日	浜田市教育委員会 益田市教育委員会

VIII 県内発掘調査一覧

市町村など（*平成29年1月4日～平成29年12月28日に通知のあったもの）

番号	対象遺跡			発掘届出書・通知書				調査の目的・契機等
	種別	名称	所在地	届出年月日	通知者 届出者	発掘担当者	発掘面積㎡	
1	城下町遺跡	松江城下町遺跡(奥谷町170-3外)	松江市奥谷町109-2	28.12.28	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	徳永 隆	105	個人住宅
2	集落跡	郷路橋遺跡	邑智郡邑南町市木1351番地先～1382-1番地先	28.11.22	邑南町教育委員会教育長 土居達也	佐々木義彦	48	農業基盤整備事業(農道等を含む)
3	集落跡	大月遺跡	大田市仁摩町大国内	28.12.8	大田市教育委員会教育長 大國晴雄	矢部俊一	144	その他の建物(道の駅)
4	集落跡	京円原遺跡	大田市仁摩町大国内	28.12.8	大田市教育委員会教育長 大國晴雄	矢部俊一	108	その他の建物(道の駅)
5	集落跡	外屋敷遺跡	松江市大庭町外屋敷800-12	29.1.16	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	3.6	個人住宅
6	散布地 集落跡	長廻遺跡	松江市上乃木4丁目1447-3、4	29.2.15	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	徳永 隆	50.0	宅地造成
7	城下町遺跡	津和野城下町遺跡	鹿足郡津和野町後田107-2	29.2.7	津和野町教育委員会教育長 世良清美	山本 遙	7	保存目的の範囲内容確認調査
8	城下町遺跡	松江城下町遺跡(北堀町304外)	松江市北田町304外	29.2.13	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	5	学術研究
9	散布地	柏木遺跡	松江市西持田町字柏木105-1外	29.2.27	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	廣濱貴子 他	249	宅地造成
10	集落跡	小山遺跡・蔵小路西遺跡	出雲市小山町113番地1外	29.2.17	出雲市教育委員会教育長 槇野信幸	須賀照隆	30.0	店舗
11	散布地 集落跡	高西遺跡	出雲市塩冶町871番地外	29.3.2	出雲市教育委員会教育長 槇野信幸	須賀照隆	18	道路
12	古墳 横穴墓 その他の墓	西谷墳墓群	出雲市大津町3611-7	29.2.20	出雲市教育委員会教育長 槇野信幸	須賀照隆	20	その他の開発(広場・庭園整備)
13	古代道路跡	杉沢遺跡三井Ⅱ遺跡・長原遺跡	出雲市斐川町直江3704-11他	28.4.1	出雲市教育委員会教育長 槇野信幸	江角 健	70	保存目的の範囲内容確認調査
14	城下町遺跡	松江城下町遺跡(奥谷町291外)	松江市奥谷町291番外17筆	29.4.3	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	徳永 隆	300	宅地造成
15	生産遺跡	本船木窯跡	松江市玉湯町布志名441-2	29.4.20	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	徳永 隆	87.0	宅地造成
16	社寺跡	出雲大社境内遺跡	出雲市大社町杵築東195	29.4.3	出雲市教育委員会教育長 槇野信幸	原 俊二	285	その他の建物(神社施設)
17	生産遺跡	吉時2号鈿跡	邑智郡邑南町和田1656-2	29.5.1	邑南町教育委員会教育長 土居達也	佐々木義彦	4.0	道路
18	集落跡 生産遺跡	上津屋遺跡	雲南市吉田町吉田2803-3外	29.4.10	雲南市教育委員会教育長 景山明	坂本論司	1,800	農業基盤整備事業(農道等を含む)
19	城下町遺跡	松江城下町遺跡(北堀町14外)	松江市北堀町14外	29.5.25	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	赤沢秀則	100	その他の建物(福祉施設)
20	散布地 条里制遺跡	ドロケ遺跡・本庄川流域条里制遺跡	松江市新庄町758外	29.5.25	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	85.5	農業基盤整備事業
21	城下町遺跡	松江城下町遺跡(殿町198-7外)	松江市殿町198-7外	29.6.5	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	徳永桃代	40.86	道路
22	散布地	段ノ原A遺跡	邑智郡邑南町高見489-1他	29.6.8	邑南町教育委員会教育長 土居達也	佐々木義彦	4.0	道路
23	散布地	半田遺跡群	益田市匹見町匹見イ291-1	29.6.12	益田市教育委員会教育長 柳井秀雄	長澤和幸	6	その他の建物(自治会集会所)
24	集落跡	長廻遺跡	松江市上乃木4丁目1447-4	29.6.14	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	114.61	個人住宅
25	散布地	恩部遺跡	松江市八雲町熊野2838外	29.6.30	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	赤澤秀則	150.0	その他開発(太陽光発電所建設)
26	集落跡	白枝荒神遺跡	出雲市白枝町962番地外	29.6.28	出雲市教育委員会教育長 槇野信幸	須賀照隆	500	個人住宅兼工場又は店舗
27	城館跡	浜田城跡	浜田市殿町83-72、83-246、83-245	29.7.11	浜田市教育委員会教育長 石本一夫	藤田大輔	549	道路
28	古墳	山代二子塚古墳	松江市山代町497	29.7.18	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	赤澤秀則	40	保存目的の範囲内容確認調査

番号	対象遺跡			発掘届出書・通知書				調査の目的・契機等
	種別	名称	所在地	届出年月日	通知者届出者	発掘担当者	発掘面積㎡	
29	散布地	鳥ヶ崎遺跡	松江市玉湯町林 1205-1	29.7. 18	京都大学白眉センター 人文科学研究所 上峯篤史	上峯篤史	33	学術研究
30	古墳	海崎古墳群	松江市美保閨町美保閨 1244-1	29.7. 21	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	廣濱貴子	200	道路
31	散布地	穴廻奥遺跡	松江市乃白町字穴廻奥 549-7、549-8、 549-9	29.8. 28	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	26	宅地造成
32	集落跡	外屋敷遺跡	松江市大庭町外屋敷 800	29.8. 28	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	4	個人住宅
33	散布地	久見宮ノ尾遺跡	隠岐郡隠岐の島町久美宮ノ尾	29.7. 14	島根大学法文学部考古学 研究室 及川穰	同左	8	学術研究
34	古墳	大元古墳群	益田市遠田町 3649 番地 ほか	9.8. 23	益田市教育委員会教育長 柳井秀雄	佐伯昌俊	150	保存目的の範囲 内容確認調査
35	古墳	スクモ塚古墳	益田市久城町 1055-7	29.9. 12	益田市教育委員会教育長 柳井秀雄	長澤和幸	10	個人住宅
36	古墳	礫岩古墳	松江市野原町字礫岩 586	29.9. 25	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	江川幸子	300	道路
37	集落跡	宮ノ廻遺跡	雲南市大東町大東 367-3、 378-5	29.9. 25	雲南市教育委員会教育長 景山明	高橋誠二	120	その他開発（排水路の新設）
38	集落跡	朝酌橋ノ谷遺跡	松江市朝酌町 972-30	29.10. 10	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	9.0	個人住宅
39	散布地	高西遺跡	出雲市塩冶町 872	29.10. 12	出雲市教育委員会教育長 横野信幸	江角健	900	道路
40	集落跡	川原宮Ⅲ遺跡	松江市大庭町 85-3	29.10. 16	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	49	個人住宅
41	水路跡	石見銀山遺跡温泉 津中町地区	大田市大森町口 152-2 ～口 177 沿い	29.10. 26	大田市教育委員会教育長 大國晴雄	山手貴生	120	ガス・水道・電気等
42	散布地 条里制遺跡	本庄川流域条里制 遺跡	松江市新庄町 512 外	29.11. 6	松江市教育委員会教育長 清水伸夫	川上昭一	103.5	農業基盤整備事業

県（*平成 29 年 1 月 4 日～平成 29 年 12 月 28 日に通知のあったもの）

番号	対象遺跡			発掘届出書・通知書					調査の目的・契機等
	種別	名称	所在地	届出年月日	通知者届出者	発掘担当者	発掘面積㎡	発掘予定期間	
1	散布地	奥ノ谷遺跡	出雲市湖陵町常楽寺 294-8 番地	29.4. 4	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	守岡正司	20	29.4. 15 ～ 29.4. 21	道路
2	散布地	御領田遺跡	出雲市湖陵町常楽寺 193-3 番地	29.4. 4	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	宮本正保	40	29.4. 15 ～ 29.4. 21	道路
3	集落跡	松林寺遺跡	大田市仁摩町大國 300-3 番外	29.4. 6	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	中川寧	1,700	29.4. 17 ～ 29.12. 26	道路
4	散布地	角落し遺跡	浜田市三隅町古市場 462	29.4. 7	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	久保田一郎	500	29.5. 8 ～ 29.6. 30	道路
5	古墳 横穴墓	諸友西横穴群	大田市久手町刺鹿 465-1 ほか	29.4. 14	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	伊藤智	40	29.4. 17 ～ 29.5. 2	道路
7	散布地	田湖遺跡	江津市川平町南上川 153-1 外	29.5. 1	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	増田浩太	1,530	29.5. 15 ～ 29.10. 31	河川
8	散布地	森原神田川遺跡	江津市松川町太田 52-4 外	29.5. 1	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	深田浩	2,800	29.5. 10 ～ 29.12. 26	河川
9	散布地 集落跡	尾ノ上遺跡	大田市鳥井町鳥越 82-2	29.5. 8	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	大庭俊次	1,000	29.6. 1 ～ 29.12. 22	道路
10	散布地 集落跡	御堂谷遺跡	大田市鳥井町鳥越 848 番地 1・長久町ハ 178 番地・長久町ハ 179 番 地 2	29.5. 19	島根県教育庁埋蔵文化財 調査センター所長	仁木聡	4,100	29.6. 1 ～ 29.12. 22	道路

Ⅷ 県内発掘調査一覧

番号	対 象 遺 跡			発 掘 届 出 書 ・ 通 知 書					調査の目的・契機等
	種 別	名 称	所 在 地	届 出 年月日	通 知 者 届 出 者	発 掘 担 当 者	発 掘 面 積㎡	発掘予定 期 間	
11	集落跡	高浜Ⅰ遺跡	出雲市里方町 941 - 47	29.5. 15	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	間野大丞	1,000	29.5. 22 ～ 29.8. 31	道路
12	集落跡	川原宮Ⅲ遺跡	松江市大庭町 84 - 1	29.8. 28	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	間野大丞	500	29.9. 11 ～ 29.12.15	道路
13	集落跡	蔵廻り遺跡	益田市西平原町 562 - 2 他	29.9. 5号	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	久保田一郎	1,760	29.9. 8 ～ 29.12. 27	道路
14	散布地	森原神田川遺跡	江津市松川町八神 241 外	29.10. 11 島教埋第 320号	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	宮本正保	3,000	29.10. 16 ～ 29.10. 31	河川 港湾
15	散布地	御領田遺跡	出雲市湖陵町常楽寺 182 - 6	29.11. 22 島教埋第 392号	島根県教育庁文化財課長	宮本正保	30	29.12. 11 ～ 29.12. 15	道路
16	散布地 集落跡	柿木田家下遺跡	出雲市湖陵町常楽寺 297	29.11.22 島教埋第 392号	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	宮本正保	45	29.11. 27 ～ 29.12. 6	道路
17	集落跡	垂水遺跡	大田市静間町野伏 752 - 6 外	29.11. 21 島教埋第 385号	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	中川 寧	200	29.12. 4 ～ 29.12. 15	道路
18	古墳	柿木田古墳群	出雲市湖陵町常楽寺 940 - 5 外	29.11. 22 島教埋第 393号	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	宮本正保	10	29.12. 6 ～ 29.12. 8	道路
19	河川	若宮谷遺跡	松江市朝酌町 1032 - 3	29.9.8 島教埋第 413号	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	伊藤智	15	29.9. 11 ～ 29.11.2	河川
20	その他の墓	えき口古墓	浜田市三隅町古市場 514 - 1 他	29.6. 20 島教埋第 43号	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	久保田一郎	910	29.7. 1 ～ 29.8. 31	道路
21	散布地	シコノ谷遺跡	松江市朝酌町 1135 - 1、2	30.1. 11 島教埋第 481号	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	伊藤 智	10.0	30.1. 15 ～ 30.1. 19	河川

IX 刊行物

1. ドキ土器まいぶん（島根県の埋蔵文化財情報誌）

名称	発刊月	部数	内容
ドキ土器まいぶんNo.62	平成29年11月	10,000部	平成29年度上半期に実施した発掘調査、いにしえ倶楽部など埋蔵文化財普及活用事業の報告、出版物刊行案内、一度は行ってみたい島根の遺跡（堀部第1遺跡）など
ドキ土器まいぶんNo.63	平成30年3月	10,000部	平成29年度下半期に実施した発掘調査、講演会などの活用事業報告、出版物刊行案内、しまねのまいぶんミュージアム（邑南町郷土館）など

2. 発掘調査報告書

報告書名	部数	編集担当者	遺跡の概要
麓Ⅱ遺跡 坂本谷遺跡 京田遺跡（1区）一般国道9号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書1	277	勝部智明	麓Ⅱ遺跡では縄文時代の土坑を検出した。出土した縄文土器は後期初頭の磨滑縄文土器、中葉の縁帯土器が大半を占める。食物残渣とみられる獣骨等も多数出土し、当該期の集落の一部であることを確認。古墳時代中期に埋没した溝は矢板・横木を伴い、灌漑用の水路の可能性が考えられる。掘立柱建物跡は小規模なものが多く、神西城下に営まれた中世の農村集落跡と考えられる。斜面では柵列状ピットを検出。逆茂木等の神西城の防御施設と推定される。 坂本谷遺跡では11～14世紀の土師器を伴う集落跡を確認。斜面上部で検出した柵列状のピット列は、麓Ⅱ遺跡斜面のピット列と同種の遺構と考えられる。 京田遺跡では建物跡7棟を検出。削平により遺物は皆無に近いが、弥生時代～古代にかけて営まれた集落跡と考えられる。
玉泉寺裏遺跡（Ⅵ区・Ⅶ区）九景川遺跡（Ⅴ区）一般国道9号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書2	277	人見麻生	玉泉寺裏遺跡では、弥生時代後期後葉の竪穴建物跡、弥生時代後期～古墳時代中期の遺物が出土した。 九景川遺跡では、古墳時代後期～終末期に機能したと推定され加工段群を検出。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、碧玉製勾玉の未成品が出土した。 両遺跡の周辺には数多くの遺跡が存在しており、今後出雲平野南西地域一帯の歴史の変遷を検討する上で重要な成果を得ることができた。
のの子谷横穴墓群 京田遺跡3区 一般国道9号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書3	280	守岡正司	のの子谷横穴墓群では、古墳時代後期後葉の横穴墓6基を検出。7世紀中葉から造墓が開始され、8世紀前半までの追葬や墓前祭祀が行われていた。調査区外には6穴の開口部が確認され、少なくとも12基の横穴墓で構成されていることが判明した。 京田遺跡は、ピット4基、土坑2基を検出した。縄文時代後期中葉を中心に後期前葉から後葉の土器や石器がまとまって出土。出雲平野周辺では縄文時代後期中葉の集落の類例は少ない。
浅柄Ⅲ遺跡 一般国道9号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書4	278	守岡正司	浅柄Ⅲ遺跡では、丘陵から加工段や掘立柱建物跡、溝跡等を検出。7世紀後半の須恵器や土師器、石器等が出土。短期間に営まれた集落である。 加工段には造り付けの竈を持つものがあり、出雲平野周辺では初例となった。
一般国道9号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書9 大西大師山（18・19号横穴墓）・城ヶ谷遺跡（2区）	279	林 健亮	大西大師山遺跡では古墳時代の横穴墓2基を調査した。前回の調査を含め、計19基の横穴墓を調査したこととなる。尾根から大きく下がった位置に掘られ、過去に調査された横穴墓に比べ、丁寧に整形されている。 城ヶ谷遺跡では7世紀代と考えられる2基の竪穴建物跡を検出した。このうち1基には造付け竈が備えられている。出土遺物には土師器甕や土製支脚などの煮炊具のほか、ミニチュア土器と思われる土師器が含まれている。
一般国道9号（朝山大田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書10 高原遺跡（3区）・中尾H遺跡（4区）・門遺跡（2区）	280	是田 敦	高原遺跡（3区）では調査例の少ない16世紀前半の石塔と基壇を調査した。 中尾H遺跡（4区）では河川流路を検出し、縄文時代から古代の遺物を採集した。特に尖頭器は大田市内で最も古い遺物で注目される。 門遺跡（2区）では古墳時代から7世紀の竪穴建物の一部と考えられる遺構を検出した。
一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書4 古屋敷遺跡（G区）	280	内田律雄	古屋敷遺跡G区では潮川によって形成された沖積平野の中にあつて、縄文時代晩期の新旧2本の河道、地床炉、クルミ・トチなどの貯蔵施設やその廃棄場、杭列などを検出した。遺物の多くは旧河道から出土し、縄文土器の他に打製石斧や磨石、石皿、堅果類が多く出土した。旧河道からは倒木や流木も出土し、その樹種組成から当時は遺跡の周辺にトチやイチイガシが繁茂していたことが窺える。
一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書5 古屋敷遺跡（B区）	281	宮本正保	古屋敷遺跡は、大田市仁摩町大田の沖積平野東端に位置する、縄文時代後期から弥生時代前期の遺跡である。本調査区では弥生時代の水田跡や縄文時代晩期を中心とする多くの地床炉・ピットが検出された。またこれらに伴い縄文土器・石器など様々な遺物が大量に出土した。 本調査区では、土器型式の変化や水田の導入など、縄文時代後期から弥生時代前期における遺跡の変遷を把握することができ、この地域が、水田農耕社会へと変化していく様子を検討する上で、貴重な資料を得た。

IX 刊行物

報告書名	部数	編集担当者	遺跡の概要
一般国道9号（静岡・仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書6 鳴滝山鉛鉱山古道・御大師山古道	278	是田 敦	鳴滝山鉛鉱山古道は鉛鉱山の経営に関連する道である。鳴滝山鉛鉱山は産出した鉛が近世には石見銀山の銀精錬に使用されている重要な鉱山である。 御大師山古道は山頂に祀られた弘法大師座像へ参拝するための道である。
一般国道9号（三隅益田道路）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書1 海石西遺跡 角落し遺跡 廻り田遺跡 近世山陰道跡（馬橋地区） 神出西遺跡	279	伊藤徳広	海石西遺跡では、古墳時代初めの自然河道の痕跡以外に遺構は確認されなかったが、弥生時代中期末と古墳時代初めの土器がまとめて出土し、さらに防長系の緑釉陶器も2点出土している点は注目される。 角落し遺跡では、古墳時代中期の土器だまり、平安時代末頃の杭列などを確認した。遺物は主に古墳時代中期と平安時代末頃の遺物が多く、平安時代末頃には丘陵と湿地の境界で谷奥からの流水などをせき止めるために杭列が設置されていた。 廻り田遺跡では、丘陵上に2か所の高まりが確認された。遺物は出土しなかったが、付近には近世山陰道推定地があり、2か所の高まりは一里塚の可能性がある。近世山陰道跡（馬橋地区）では、石敷きの街道跡を検出した。直接的には昭和に改修されたものであるが、街道に付随する石垣は近世にさかのぼる可能性がある。 神出西遺跡では、弥生時代と古墳時代中期の溝跡や遠田川の旧河道が確認された。主な出土遺物は弥生時代中期と古墳時代中期で、建築部材や槽などの木製品も出土している。
風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書24 上竹矢7号墳・東百塚山古墳群・古天神古墳・安部谷古墳群発掘調査報告書	500	神柱靖彦	上竹矢7号墳では8本のトレンチを掘削し、古墳時代前期の全長66mの前方後円墳であることを明らかにした。 東百塚山古墳群では測量調査と一部墳墓のトレンチ調査を行い、四隅突出墓である20号墓の存在から弥生時代後期後葉から丘陵が墓域として利用されていることが判明した。 古天神古墳では土層の確認調査を行い、墳丘の構築方法について概略を把握することができた。 安部谷古墳群では9基の古墳のうち円墳と方墳がそれぞれ別個に築造されていることが明らかとなった。

3. パンフレット

名称	発行部数	概要
古屋敷遺跡	4,000	大田市仁摩町に所在する縄文時代後～晩期を中心とする大規模な集落遺跡の発掘調査成果をわかりやすく紹介したパンフレット。A4 カラー 8P。

4. 発掘調査だより（発掘調査事務所発行）

名称	現場名	発行月	部数	概要
静之窟	大田静岡道路	6・12月	500	地元小中学校、公民館、教育委員会などに配布
石見路の言伝	三隅益田道路	6・7・10・12月	304	地元小中学校、公民館、教育委員会などに配布
高浜I遺跡だより	県道矢尾今市線	6・7・8月	295	地元小中学校、公民館、教育委員会などに配布
ほるる～と4・3・2	国道432号大庭バイパス	10・12・1月	180	地元小中学校、公民館、教育委員会などに配布
中国太郎の発掘日記	江の川改修事業	6・7・8・9・12月	140	地元小中学校、公民館、教育委員会などに配布
意宇の杜	出雲国府跡	5月	840	地元小中学校、公民館、教育委員会などに配布

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報
—平成 29 年度—

発行	2018 年 3 月
編集	島根県埋蔵文化財調査センター 〒 690-0131 松江市打出町 33 TEL 0852-36-8608 E-mail ; maibun@pref.shimane.lg.jp http://www.pref.shimane.lg.jp/maizoubunkazai/